

令和 7 年管内事業用自動車事故統計



国 土 交 通 省
九 州 運 輸 局

ま え が き

令和7年に発生した全国の交通事故による死者数は、警察庁発表で2,547人となり、前年に比べ減少に転じました。平成16年に過去最悪を記録した交通事故の発生件数及び負傷者数は、平成17年以降18年連続で減少しておりましたが、令和5年において増加したものの、以降こちらも減少に転じました。また、依然として約29万件と多くの交通事故が発生しており、事故防止対策の更なる拡充・強化等の対策の策定が求められています。

交通事故の根絶は国民をあげての悲願であり、特に自動車運送事業者にとっては、輸送の安全を確保することは最大の使命であります。人命尊重はもちろん企業防衛の上からも更に積極的に事故防止に取り組まなければなりません。

本書は、令和7年中に発生した事業用自動車の重大事故について、九州運輸局管内の自動車運送事業者から報告されたものを取りまとめたものです。

重大事故の発生を防止するためには、的確な状況分析を行い背景的要因との関係を正確に把握し、これらに適応した措置を講ずることが緊急の要務であります。

本資料が今後の事故防止対策の一助となれば幸いと存じます。

令和8年10月

九州運輸局 自動車技術安全部 保安・環境課

目 次

I 交通事故の現状

1. 交通事故発生状況	1
-------------	---

II 管内事業用自動車の重大事故発生状況

1. 重大事故発生状況	2
2. 業態別重大事故発生状況	4
3. 事故種別別重大事故発生状況	7
4. 事故原因別発生状況	10
5. 事故惹起運転者の状況（有責事故）	13
6. 事故発生地点の道路状況	16
7. 月別・曜日別・時刻別事故発生状況	18
8. 危険認知速度別事故発生状況	21
9. 高速道路等における重大事故発生状況	22

III 管内事業用自動車の重大事故統計

1. 業態別・県別・年次別重大事故発生状況	24
2. 業態別・事故の種別別・年次別重大事故発生状況	24
3. 県別・業態別重大事故発生状況	25
4. 県別・業態別・種別別重大事故発生状況	26
5. そ の 他	29

用 語 の 意 味

1. 重大事故とは、自動車事故報告規則第2条に規定する事故をいう。

2. 事故（自動車事故報告規則第2条）とは、次のいずれかに該当する自動車事故をいう。

- (1) 自動車が転覆し、転落し、火災（積載物品の火災を含む）を起こし、又は鉄道車両（軌道車両を含む）と衝突し、若しくは接触したもの
- (2) 10台以上の自動車の衝突又は接触を生じたもの
- (3) 死者又は重傷者を生じたもの
- (4) 10人以上の負傷者を生じたもの
- (5) 自動車に積載された危険物等が飛散し、又は漏えいしたもの
- (6) 自動車に積載されたコンテナが落下したもの
- (7) 操縦装置又は乗降口の扉を開閉する装置の不適切な操作により、旅客に11日以上医師の治療を要する傷害が生じたもの
- (8) 酒気帯び運転（※）、無免許運転、大型自動車等無資格運転又は麻薬等運転（※）を伴うもの
- (9) 運転者（※）の疾病により、事業用自動車の運転を継続できなくなったもの
- (10) 救護義務違反があったもの
- (11) 自動車の装置の故障により運行できなくなったもの
- (12) 車輪の脱落、被牽引自動車の分離を生じたもの（故障によるものに限る）
- (13) 鉄道施設を損傷し、3時間以上本線において鉄道車両（軌道車両を含む）の運転を休止させたもの
- (14) 高速自動車国道又は自動車専用道路において3時間以上自動車の通行を禁止させたもの
- (15) 国土交通大臣が特に必要と認めて報告を指示したもの

（※）特定自動運行保安員を含む

3. 事故種類の定義は次のとおりとする。

転 覆	当該自動車が道路上において路面と35度以上傾斜したとき
転 落	当該自動車は道路外に転落した場合で、その落差が0.5メートル以上のとき
路外逸脱	当該自動車の車輪が道路（車道と歩道の区分がある場合は車道）外に逸脱した場合で「転落」以外のとき
火 災	当該自動車又は積載物品に火災が生じたとき
踏 切	当該自動車が踏切において、鉄道車両（軌道車両を含む）と衝突し、又は接触したとき
衝 突	当該自動車が鉄道車両（軌道車両を含む）、トロリーバス、自動車、原動機付自転車、荷牛馬車、家屋その他の物件に衝突し、又は接触したとき
死 傷	当該自動車が通行者（自転車に乗っている者を含む）等自動車に乗車していない者を死傷させたとき
危険物等	危険物、高圧ガス、毒物、劇物等を運搬する自動車に積載された危険物等が飛散、漏えいしたもの又は自動車に積載されたコンテナが落下したもの
車 内	操縦装置又は乗降口の扉を開閉する装置の不適切な操作により、旅客（乗降する際の旅客を含む）を死傷させたとき

飲 酒 等	酒気帯び運転、無免許運転、大型自動車等無資格運転又は麻薬等運転を伴うもの
健康起因	運転者の疾病により、運転を継続することができなくなったもの
救護違反	救護義務違反があったもの
車両故障	自動車の装置（道路運送車両法第41条第1項各号に掲げる装置をいう）の故障により、自動車が運行できなくなったもの又は車輪の脱落、被牽引自動車の分離を生じたもの
交通障害	橋脚、架線その他の鉄道施設を損傷し、3時間以上本線において鉄道車両（軌道車両を含む）の運転を休止させたもの又は高速自動車国道又は自動車専用道路において3時間以上自動車の通行を禁止させたもの
そ の 他	前各区分に該当しないとき

4. 重傷とは次のいずれかの傷害を受けたとき。

- (1) 脊柱の骨折
- (2) 上腕又は前腕の骨折
- (3) 大腿又は下腿の骨折
- (4) 内臓の破裂
- (5) 14日以上病院に入院することを要する傷害
- (6) 病院に入院することを要する傷害で、医師の治療を要する期間が30日以上のもの

5. 死亡とは、事故が原因で死亡したもの。（※事故発生後24時間以内に死亡したもの）

6. 軽傷とは、上記4及び5以外の負傷をいう。

I 交通事故の現状

1. 交通事故発生状況

令和7年中に全国で発生した交通事故の発生件数、死者数及び負傷者数は、〔表1、表2〕のとおりです。発生件数は前年に比べて3,872件減の287,023件（-1.3%）で、死者数は116人減の2,547人（-4.4%）、負傷者数は5,887人減の338,508人（-1.7%）となっており、死者数及び交通事故の発生件数、負傷者数ともに、前年より減少となりました。

九州（沖縄除く）における対前年比については、事故発生件数が2,125件減（-6.2%）、死者数が22人減（-7.0%）、負傷者数は2,889人減（-6.8%）となっています。

〔表1〕 事故件数及び死傷者数等

		令和6年	令和7年	増減数	増減率
全 国	発生件数	290,895	287,023	-3,872	-1.3%
	死者数	2,663	2,547	-116	-4.4%
	負傷者数	344,395	338,508	-5,887	-1.7%
九 州 (沖縄を除く)	発生件数	34,156	32,031	-2,125	-6.2%
	死者数	316	294	-22	-7.0%
	負傷者数	42,446	39,557	-2,889	-6.8%

※全国、九州地区の事故件数及び死傷者数は警察庁交通局資料による。

〔表2〕 交通事故の推移

年	件 数	死 者 数	負 傷 者 数	保 有 車 両 数
昭和45年	718,080	16,765	981,096	18,586,503
50	472,938	10,792	622,467	28,934,020
60	552,788	9,261	681,346	47,861,691
平成7年	761,794	10,684	922,677	70,073,544
15	948,281	7,768	1,181,681	77,580,658
16	952,720	7,436	1,183,617	78,091,097
17	934,346	6,937	1,157,113	79,207,207
18	887,267	6,415	1,098,564	79,452,557
19	832,704	5,796	1,034,652	79,371,014
20	766,394	5,209	945,703	79,236,532
21	737,637	4,979	911,215	79,042,056
22	725,924	4,948	896,297	79,091,536
23	692,084	4,691	854,613	79,241,738
24	665,157	4,438	825,392	79,112,584
25	629,033	4,388	781,492	79,625,203
26	573,842	4,113	711,374	80,272,571
27	536,899	4,117	666,023	80,670,393
28	499,201	3,904	618,853	81,602,046
29	472,165	3,694	580,850	81,946,036
30	430,601	3,532	525,846	82,192,828
令和元年	381,237	3,215	461,775	82,341,762
2	309,178	2,839	369,476	82,471,678
3	305,196	2,636	362,131	82,565,091
4	300,839	2,610	356,601	82,739,619
5	307,930	2,678	365,595	83,048,158
6	290,895	2,663	344,395	83,093,587
7	287,023	2,547	338,508	83,184,146

警察庁交通局資料より抜粋……青色部分は最高値

II 管内事業用自動車の重大事故発生状況

1. 重大事故発生状況

① 重大事故発生件数及び被害状況

管内で令和7年中に、自動車事故報告規則に基づき自動車運送事業者より報告された重大事故の発生件数及び被害状況は〔表3〕のとおりです。

〔表3〕 重大事故発生件数及び被害状況

項目 \ 年	令和6年	令和7年	増減数
件数(件)	343	319	-24
死者数(人)	67	59	-8
負傷者数(人)	259	217	-42

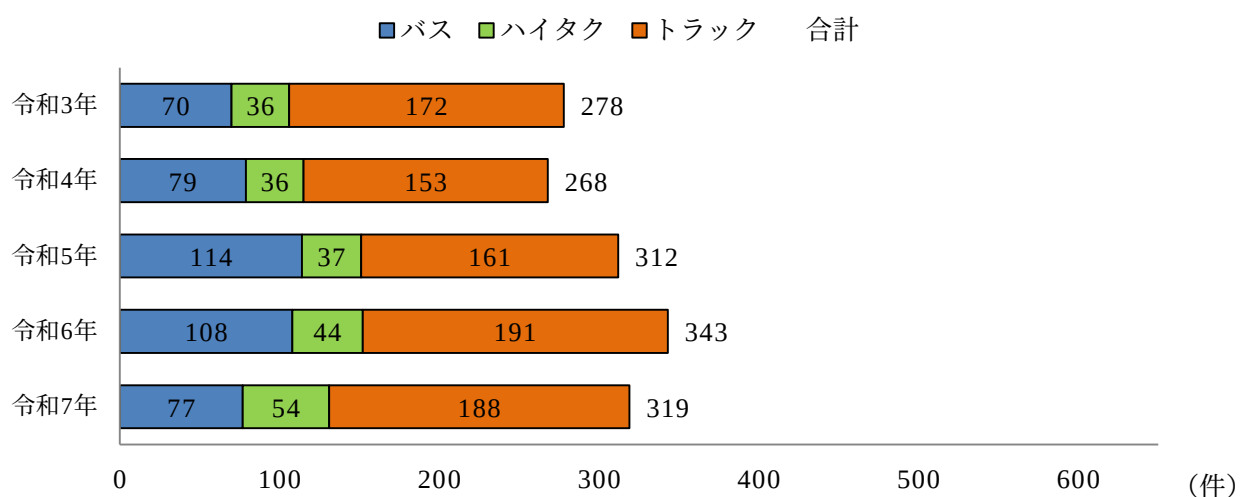
② 重大事故発生件数及び死傷者数の推移

重大事故発生件数及び死傷者数の推移は〔表4〕及び〔図1-1〕～〔図1-3〕のとおりです。

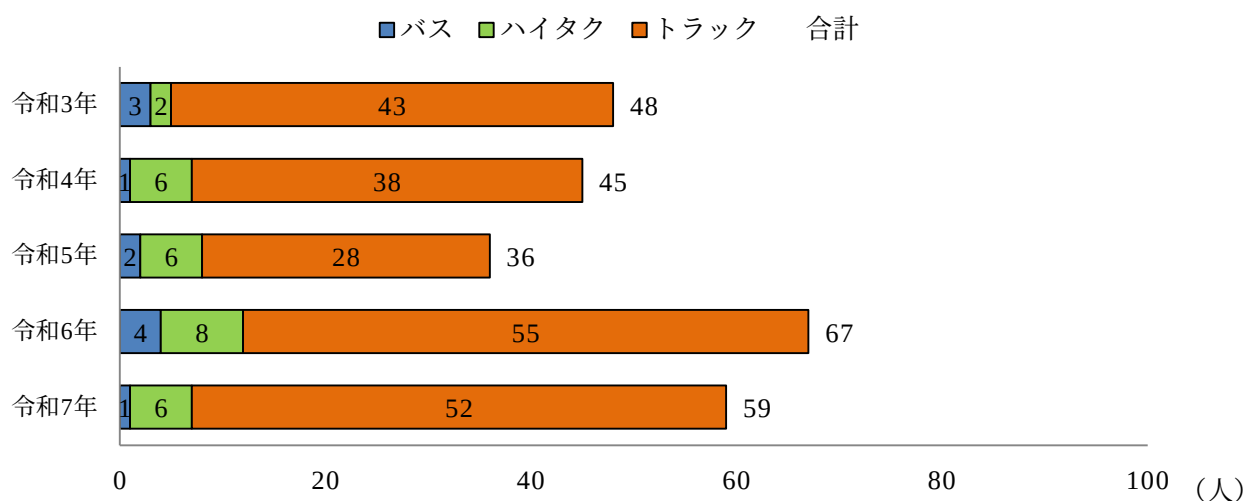
〔表4〕 重大事故発生件数及び死者数の推移

項目 \ 年 別	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
件 数 (件)	278	268	312	343	319
死 者 数 (人)	48	45	36	67	59
負 傷 者 数 (人)	205	177	241	259	217

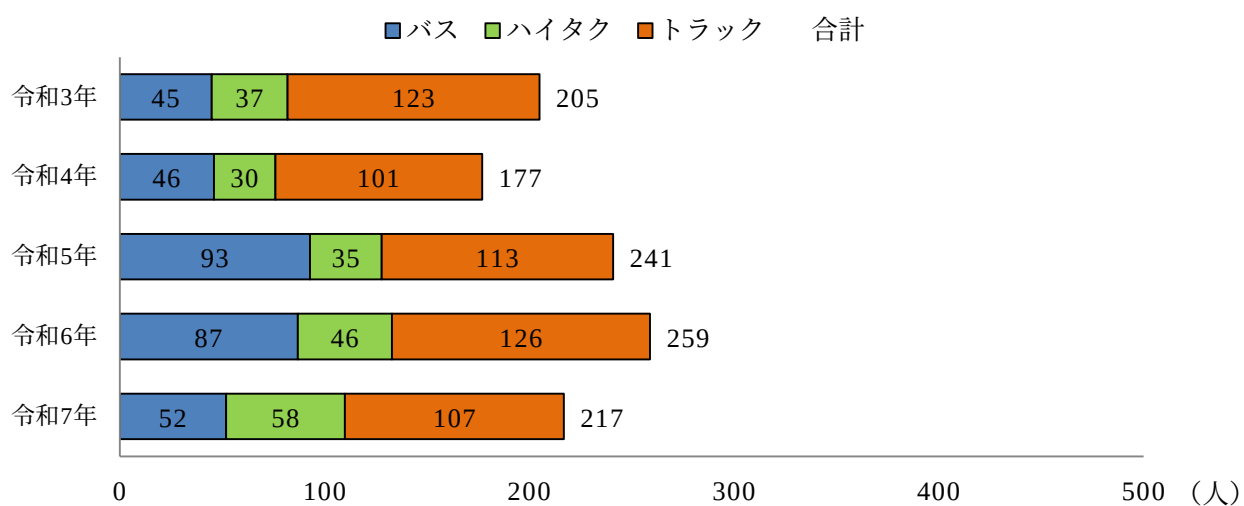
〔図1-1〕 重大事故発生件数の推移



〔図1-2〕 重大事故による死者数の推移



〔図1-3〕 重大事故による負傷者の推移



2. 業態別重大事故発生状況

令和7年中における事業用自動車の重大事故発生状況を、事業の業態別に示すと〔表5〕のとおりです。

総件数319件に対する業態別発生件数の割合は〔図2〕にあるように、トラックによるものが最も多く全体の59%を占めており、次いでバス24%、ハイタク17%となっています。

業態別の死者、重傷者の内訳をみると〔図3〕のとおりで、死者の内88%がトラックによるもので、ハイタク10%、バス2%、となっています。また、重傷者については43%がトラックによるもので、ハイタクが43%、バスが14%となっています。

業態別事故100件当たりの人身被害者数は〔図4〕のとおり、死者の発生状況ではトラックによるものが最も多く27.7人、次いでハイタクが11.1人、バスが1.3人となっており、重傷者についてはハイタクが最も多く87.0人、次いでトラックが25.0人、バスが20.8人となっています。また、事故100件当たりの死者数の推移は〔図5〕のとおり、全業態において減少しています。

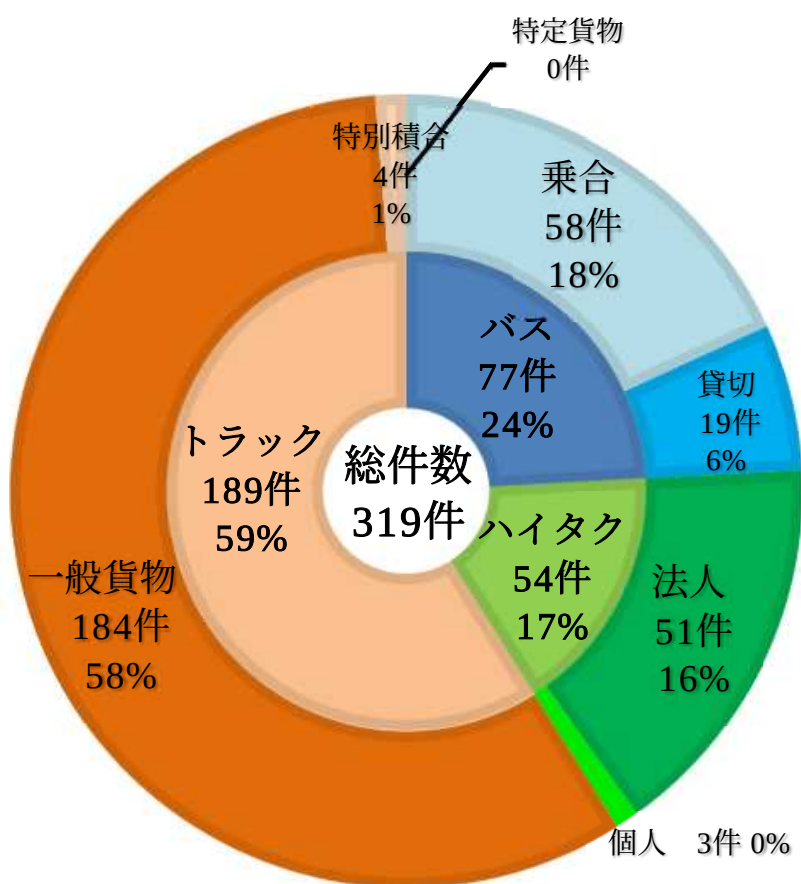
〔表5〕業態別重大事故発生状況
【九州】

区分 \ 業態別		バス	ハイタク	トラック	合計
件 数		77	54	188	319
死 者		1	6	52	59
負傷者	重傷者	16	47	47	110
	軽傷者	36	11	60	107
	計	52	58	107	217
事故百件 当り	死 者	1.3	11.1	27.7	18.5
	重傷者	20.8	87.0	25.0	34.5
	軽傷者	46.8	20.4	31.9	33.5

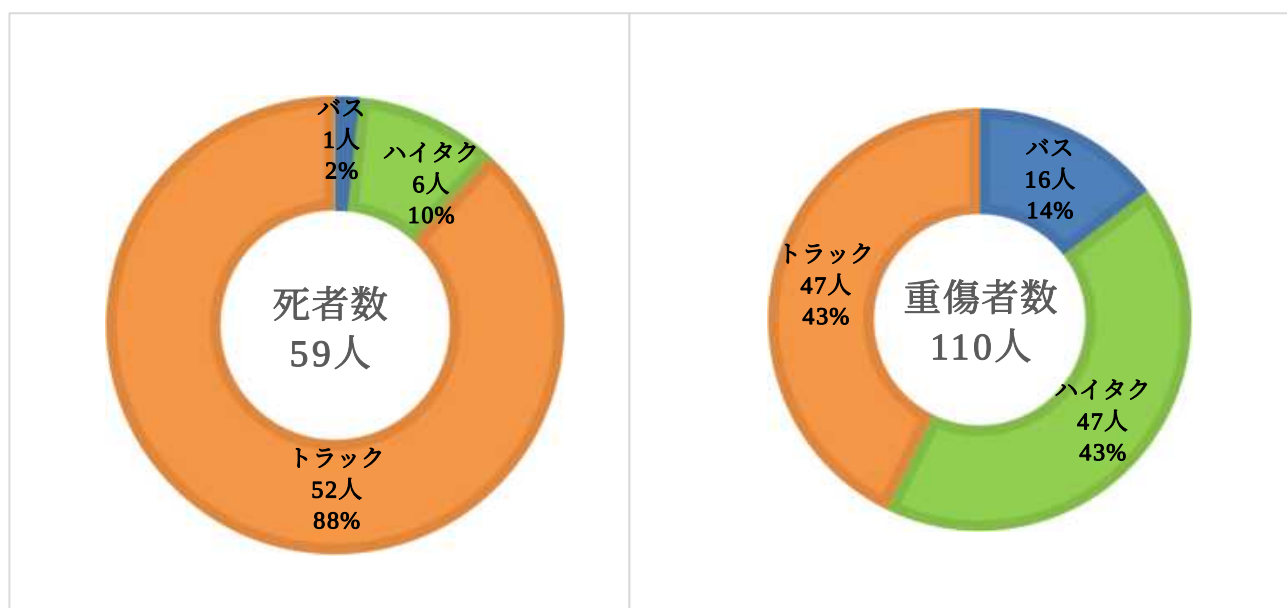
【参考 全国業態別重大事故発生状況】

区分 \ 業態別		バス	ハイタク	トラック	合計
件 数		2,594	476	2,078	5,148
死 者		21	52	368	441
負傷者	重傷者	204	338	504	1,046
	軽傷者	490	191	675	1,356
	計	694	529	1,179	2,402
事故百件 当り	死 者	0.8	10.9	17.7	8.6
	重傷者	7.9	71.0	24.3	20.3
	軽傷者	18.9	40.1	32.5	26.3

〔図2〕 業態別重大事故発生状況

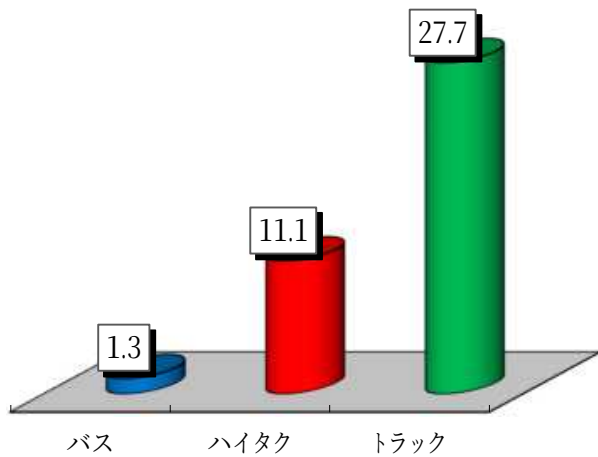


〔図3〕 業態別人身被害者数の内訳

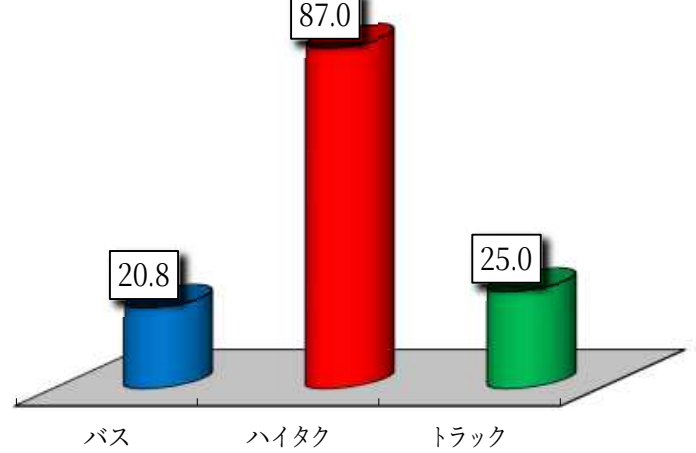


〔図4〕 業態別事故100件当たりの人身被害者数

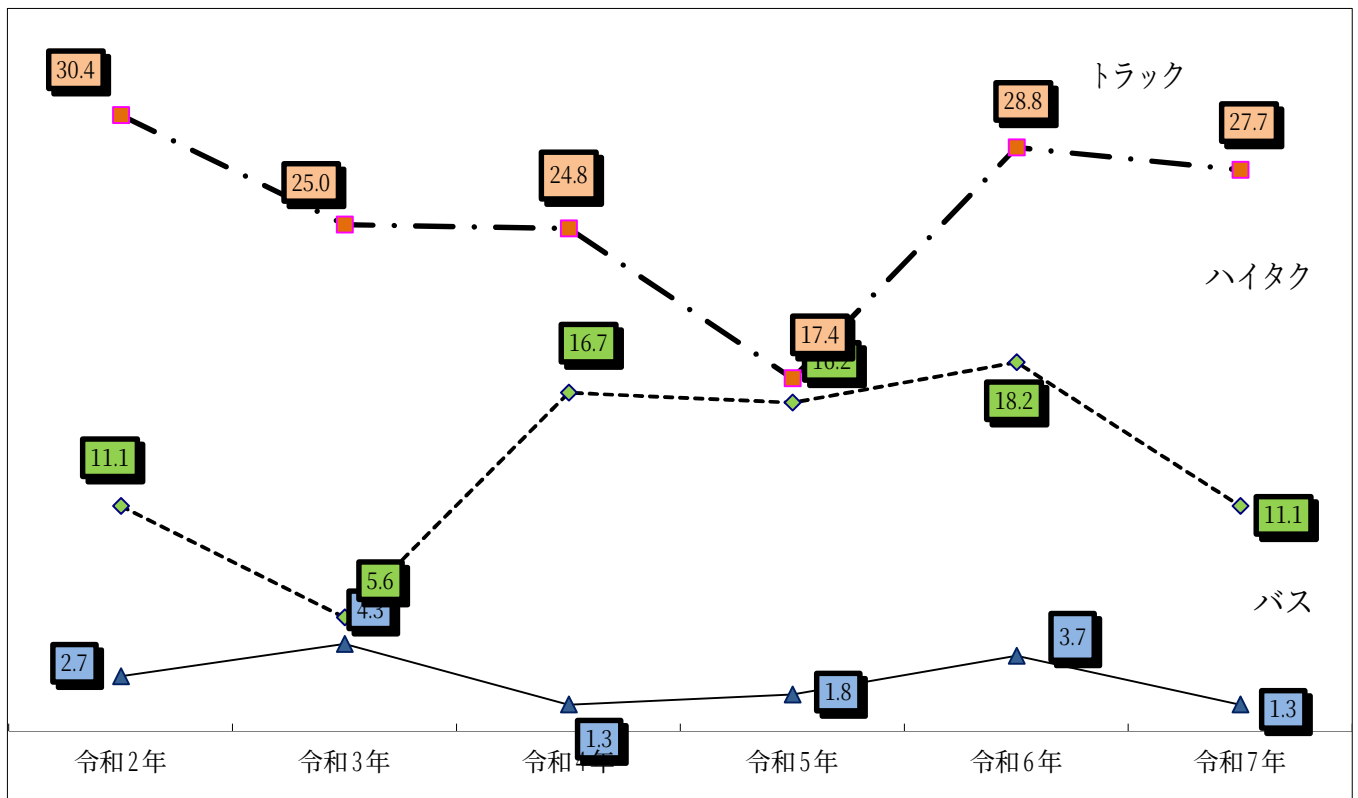
事故100件当たりの死者



事故100件当たりの重傷者



〔図5〕 業態別事故100件当たりの死者数の推移

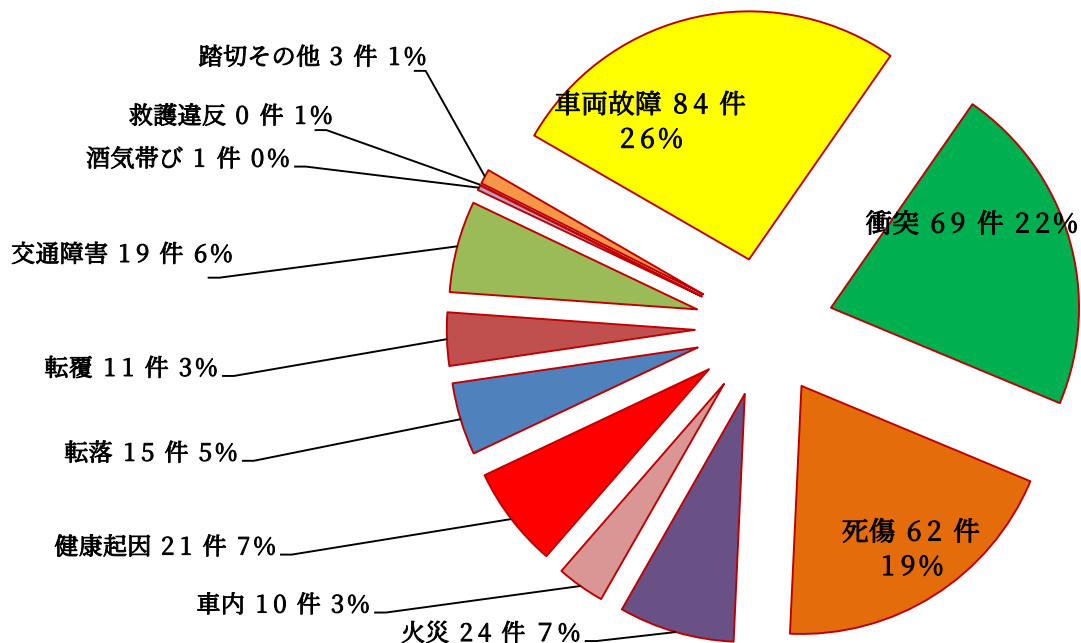


3. 事故種別別重大事故発生状況

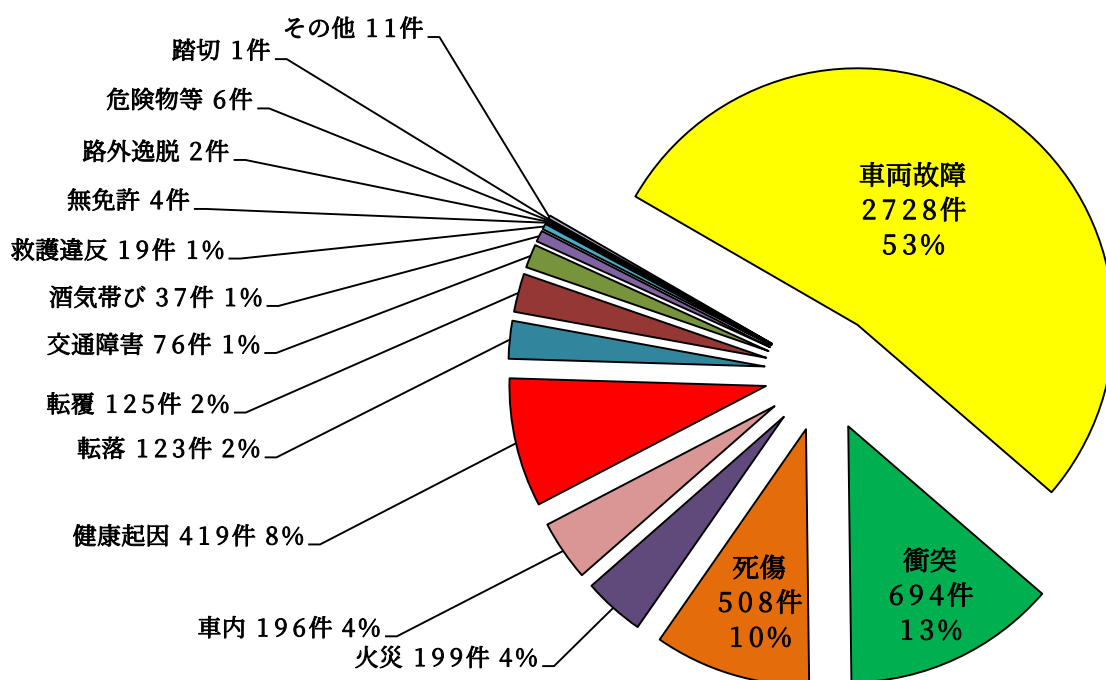
① 事故種別別発生状況

事故の種別別発生状況は〔図6-1〕のとおりです。車両故障が最も多く26%、次に衝突が22%となっており、この2種類の事故で全体の48%を占めています。また死者数については、〔図6-2〕のとおり衝突事故によるものが43%、死傷事故によるものが42%となっており、この2種類の事故で死者数全体の85%を占めています。

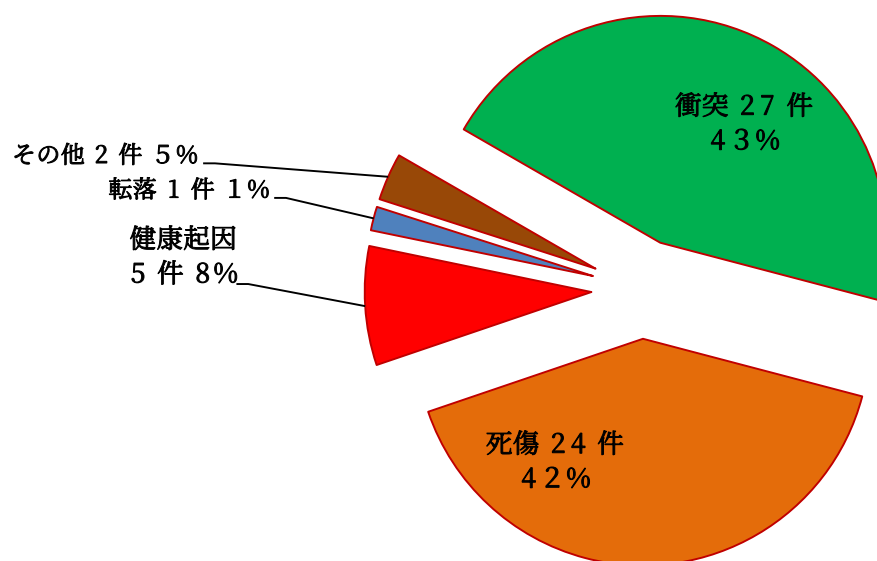
〔図6-1〕 事故種別別重大事故発生状況（総件数 3 1 9 件）



【参考 全国事故種別別重大事故発生状況（総件数 5, 1 4 8 件）】



〔図6-2〕 事故種類別死者数（死者数 59人）



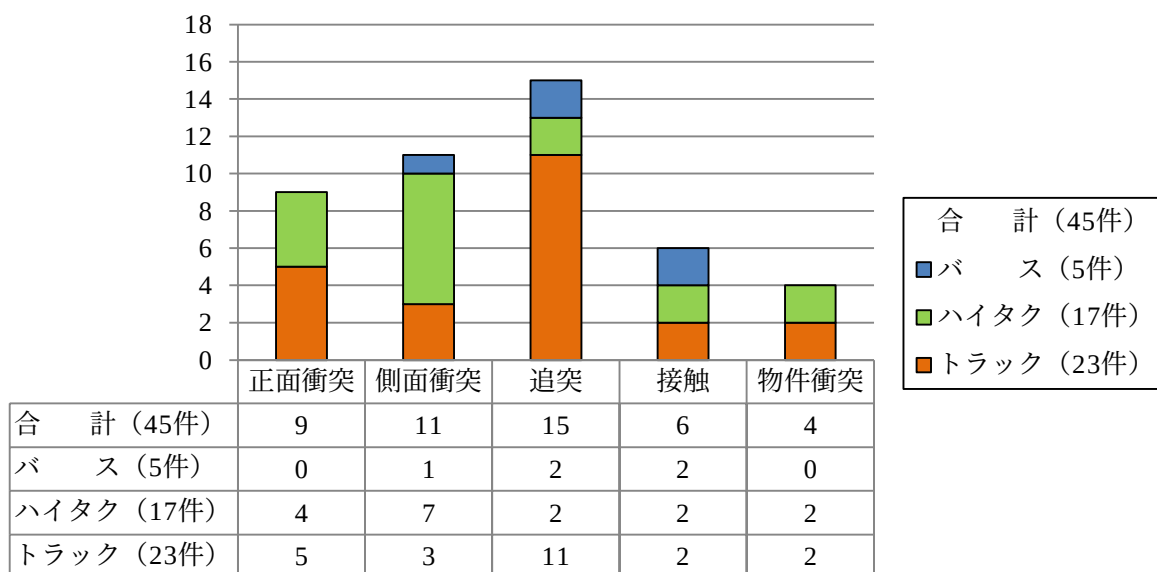
② 衝突事故

重大事故のうち多くを占める衝突事故を業態別にみると〔表6〕のとおりです。衝突事故の65.2%は当該自動車の乗務員に起因するものです。その衝突の状態は〔図7〕のとおり追突が最も多く、乗務員に起因する衝突事故の33.3%を占めており、次いで側面衝突が24.4%を占めています。

〔表6〕 業態別衝突事故発生状況

業態	件数	乗務員に起因するもの	構成比
バス	6	5	83.3%
ハイタク	19	17	89.5%
トラック	44	23	52.3%
計	69	45	65.2%

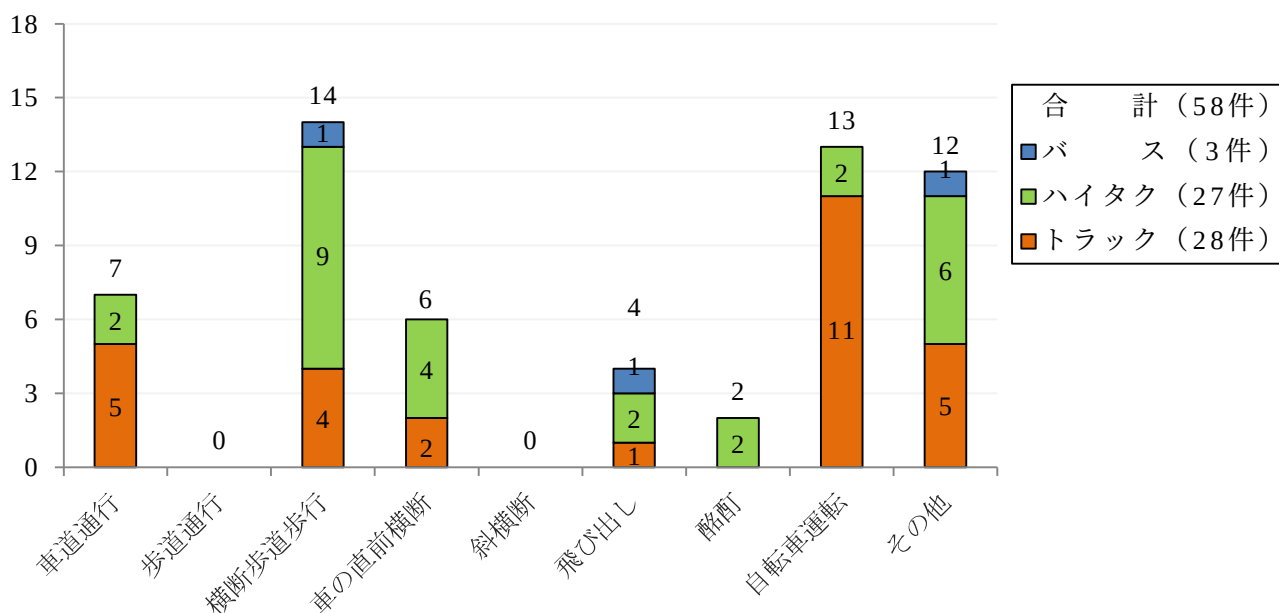
〔図7〕 業態別衝突状態（乗務員に起因するもの 45件）



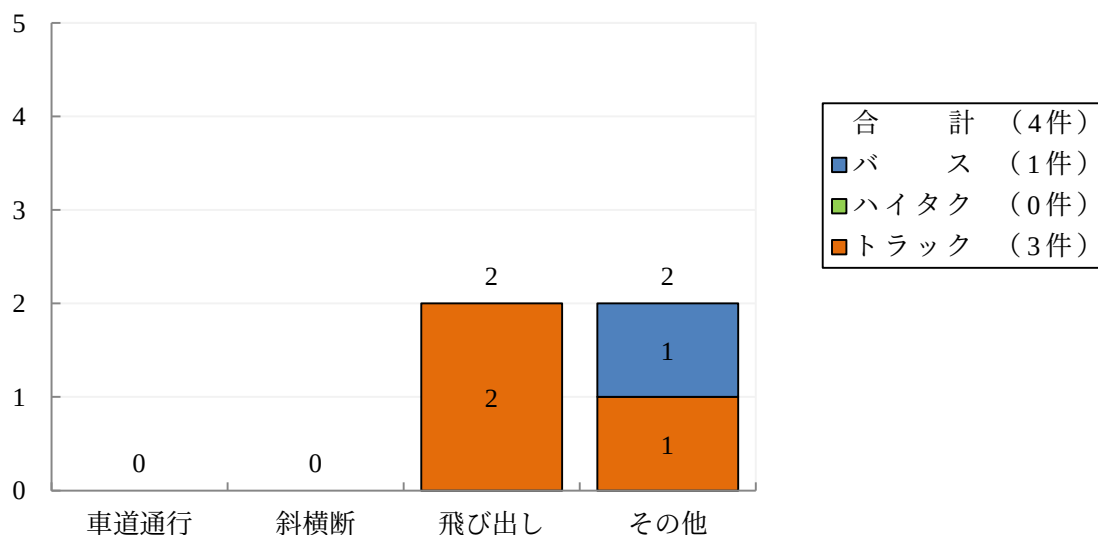
③ 死傷事故

死傷事故は、[図6-1]のとおり全事故件数の19%にあたる62件で、業態別内訳はバス4件、ハイタク27件、トラック31件となっており、また、死傷事故の93.5%（58件）は乗務員に起因する事故となっています。 事故当時の死傷者の主な状態は〔図8-1〕及び〔図8-2〕のとおりで、乗務員に起因する事故においては「横断歩道歩行」、「車の直前横断」での事故が多く、歩行者等に起因する事故においては「飛び出し」による事故が多くなっています。

〔図8-1〕 業態別死傷者状態
（乗務員に起因するもの 58件）



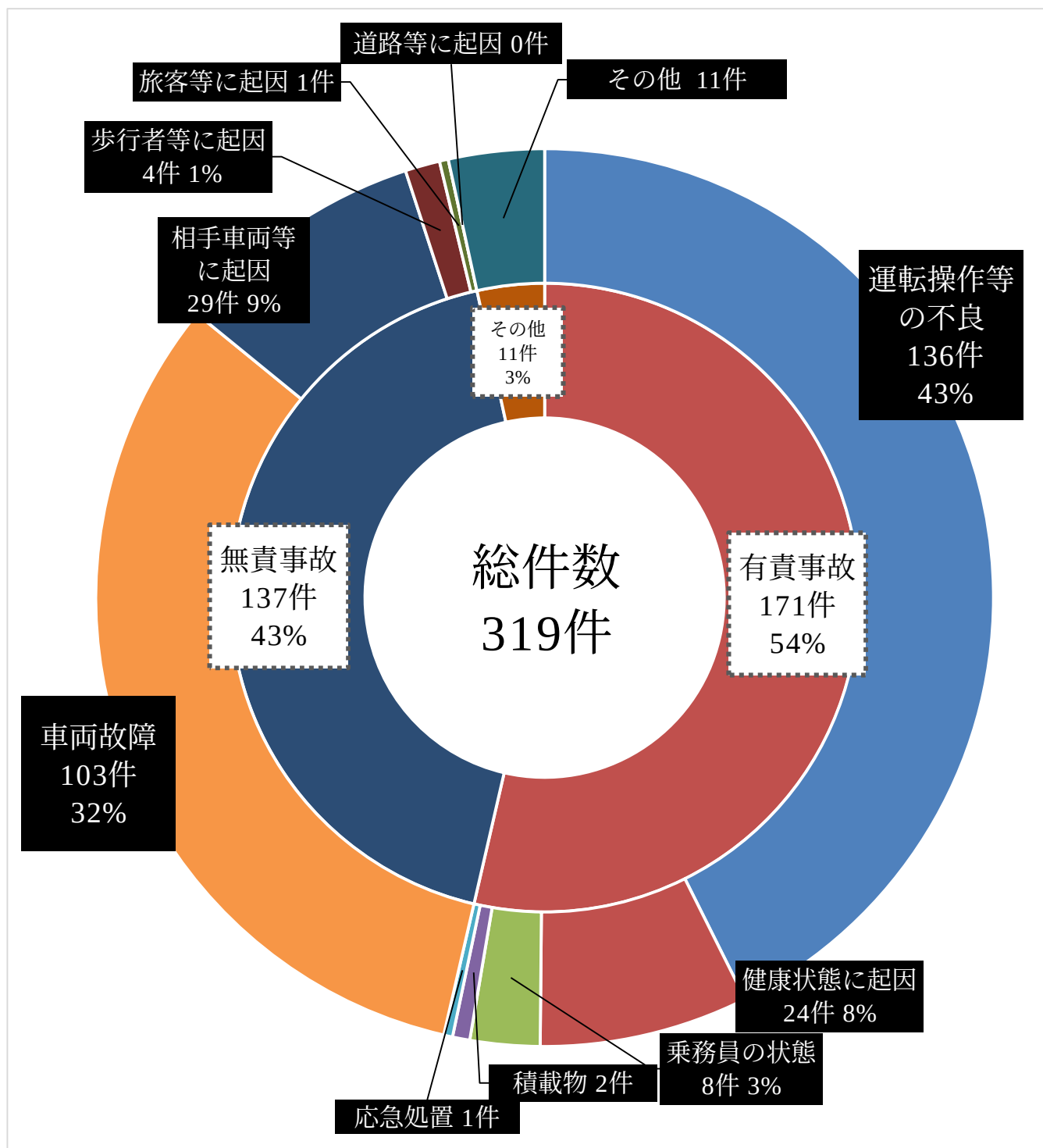
〔図 8-2〕 （歩行者等に起因するもの 4 件）



4. 事故原因別発生状況

事故の原因を事業用自動車の運転者に起因する事故（以下「有責事故」という）と相手側に起因する事故等（以下「無責事故」という）に分けると、〔図 9〕 のとおり有責事故が 171 件（54%）、無責事故が 137 件（43%）で、有責事故の方が若干高い割合を占めています。また、有責事故 171 件中 136 件は運転者の運転操作等不良によるものとなっています。

〔図9〕 原因別重大事故発生状況



更に、有責事故について、その内容を業態別、事故原因上位の項目をみると〔表7〕のとおりです。業態別にみるとバスは「発車時の安全確認の不良又は不履行」、ハイタクは「歩行者に対する不注意」、トラックは「歩行者に対する不注意」、「漫然運転」による事故が多くなっています。

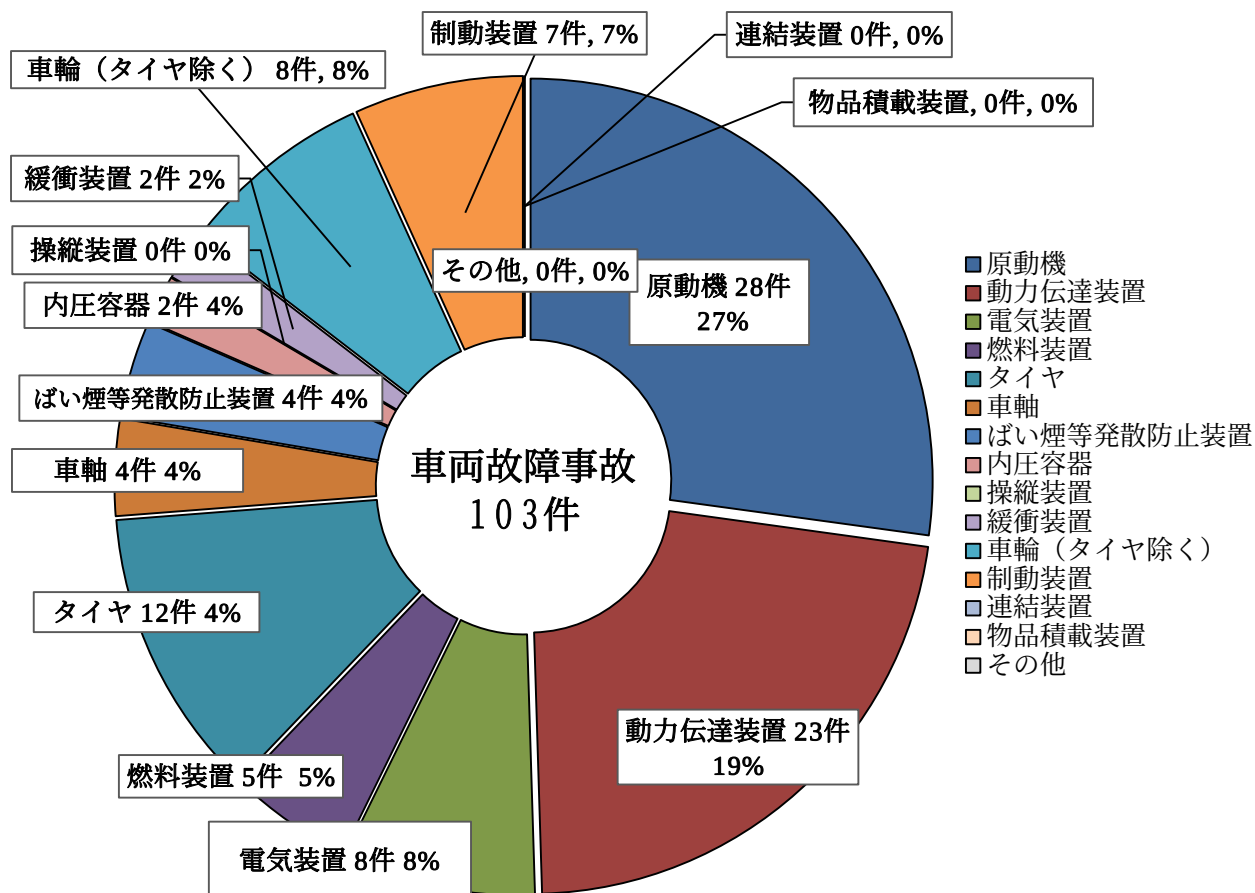
また、車両故障に起因するものは103件発生しており、発生状況は〔図10〕のとおりです。

〔表 7〕 有責事故の状況（第 1 原因）

業 態	順 位	事 故 原 因	件 数	比 率
バ ス	1	発車時の安全確認の不良又は不履行	5	20.0%
	2	左折、右折不適切	2	8.0%
	2	乗降口扉の開閉不適切（ワンマン）	2	8.0%
ハ イ タ ク	1	歩行者に対する不注意	21	41.1%
	2	左折、右折不適切	7	13.7%
	3	運転操作粗暴	4	7.8%
ト ラ ッ ク	1	歩行者に対する不注意	17	17.8%
	2	漫然運転	12	12.6%
	3	脇見運転	8	8.4%

※第一原因のみ集計したものです。

〔図 10〕 車両故障に起因する事故発生状況



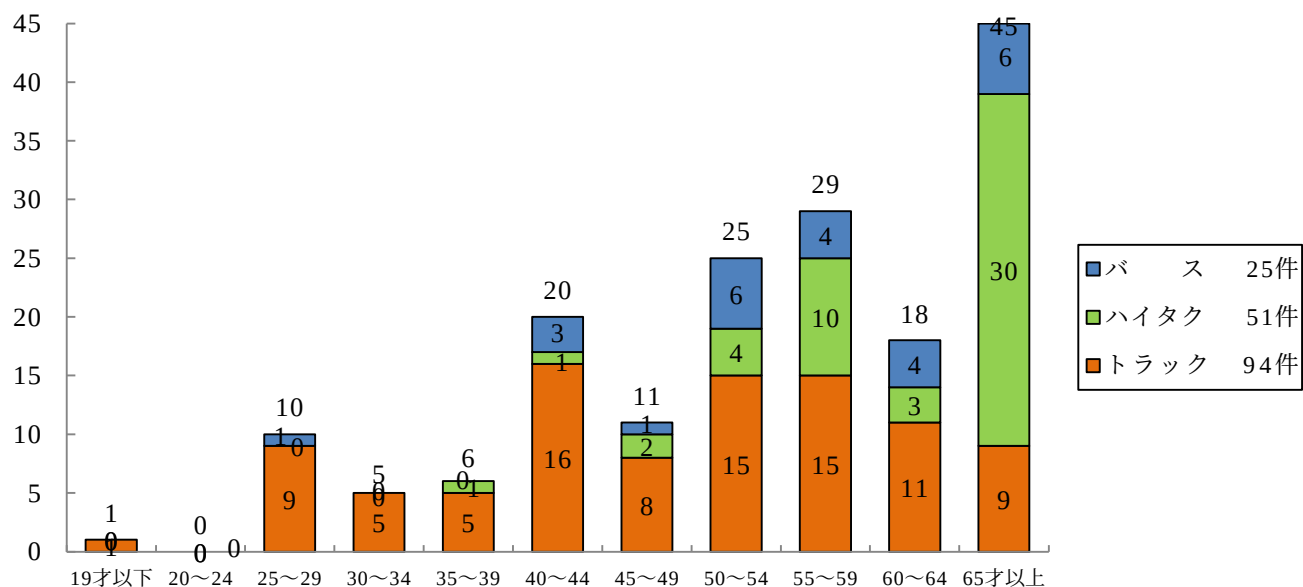
5. 事故惹起運転者の状況（有責事故）

有責事故を惹起した運転者の状況は次のとおりです。

① 運転者の年齢

運転者の年齢を業態別にみると、バスについては50～54、65歳以上の運転者による事故が多く、ハイタクについては65歳以上の運転者による事故が多くなっています。トラックについては、40～44歳の運転者による事故が多くなっています。

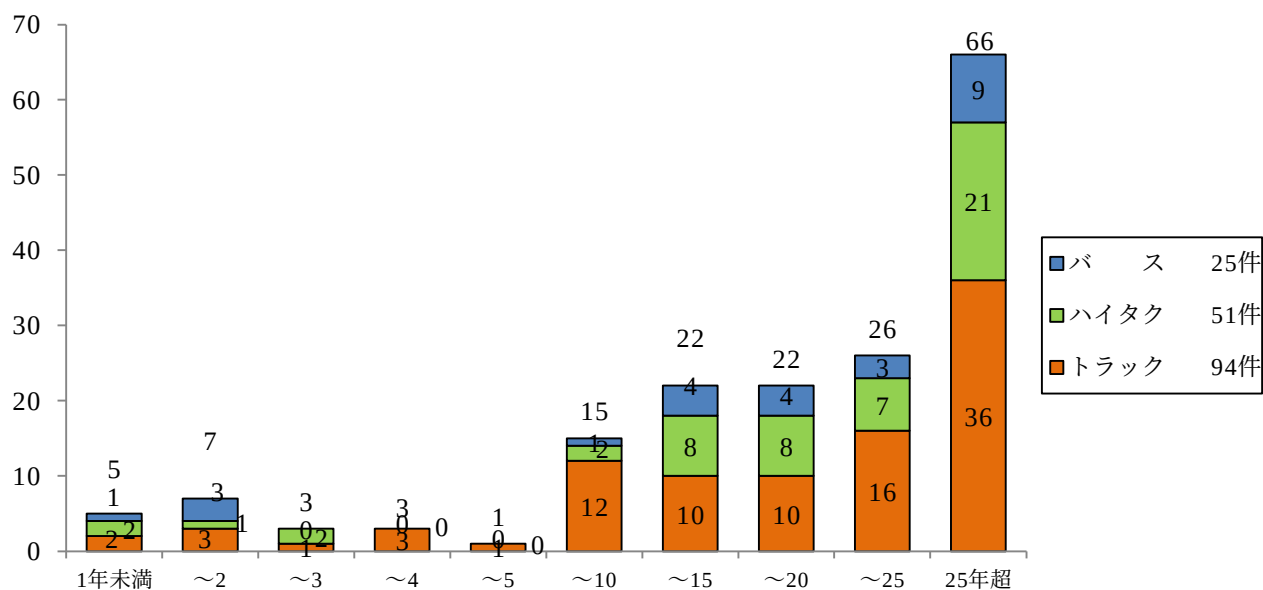
〔図11〕 有責事故発生運転者の年齢（有責事故件数 170件）



② 運転者の経験年数

運転者の経験年数については〔図12〕のとおりです。経験年数と比例して事故が減少する傾向は見られず、5年以上の経験年数を積んでいる運転者の事故も多く発生しており、特に経験年数25年超えの運転者による事故が多くなっています。

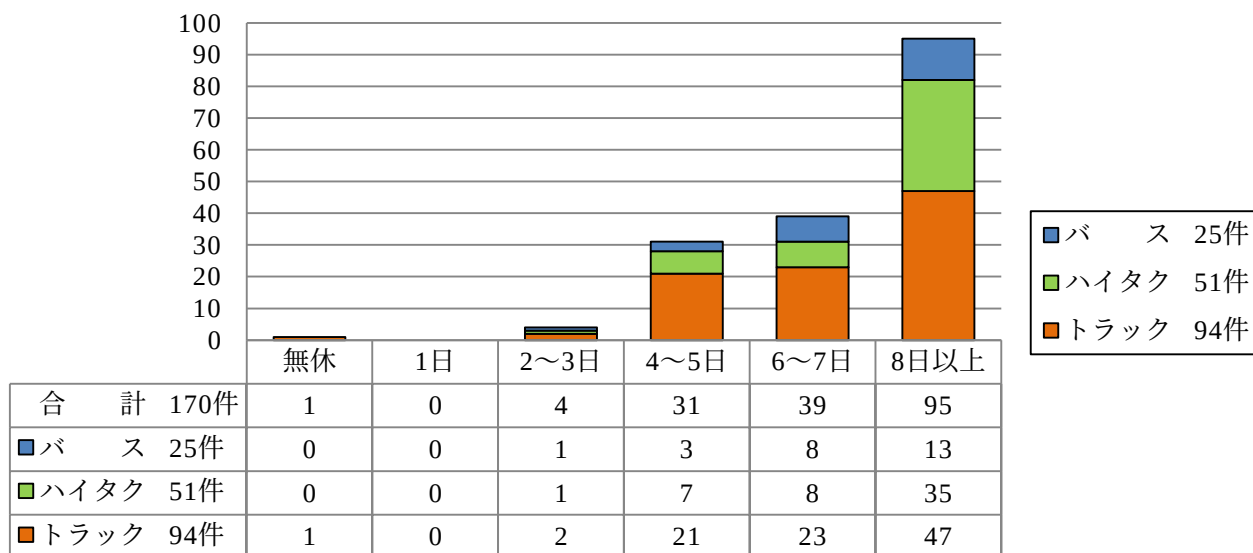
〔図12〕 有責事故発生運転者の経験年数（有責事故件数 170件）



③ 有責事故発生日以前1ヶ月間の休日日数

事故発生運転者の休暇状況は〔図13〕のとおり、1ヶ月間に8日以上の休暇をとっていた運転者が全体の55.8%となっています。

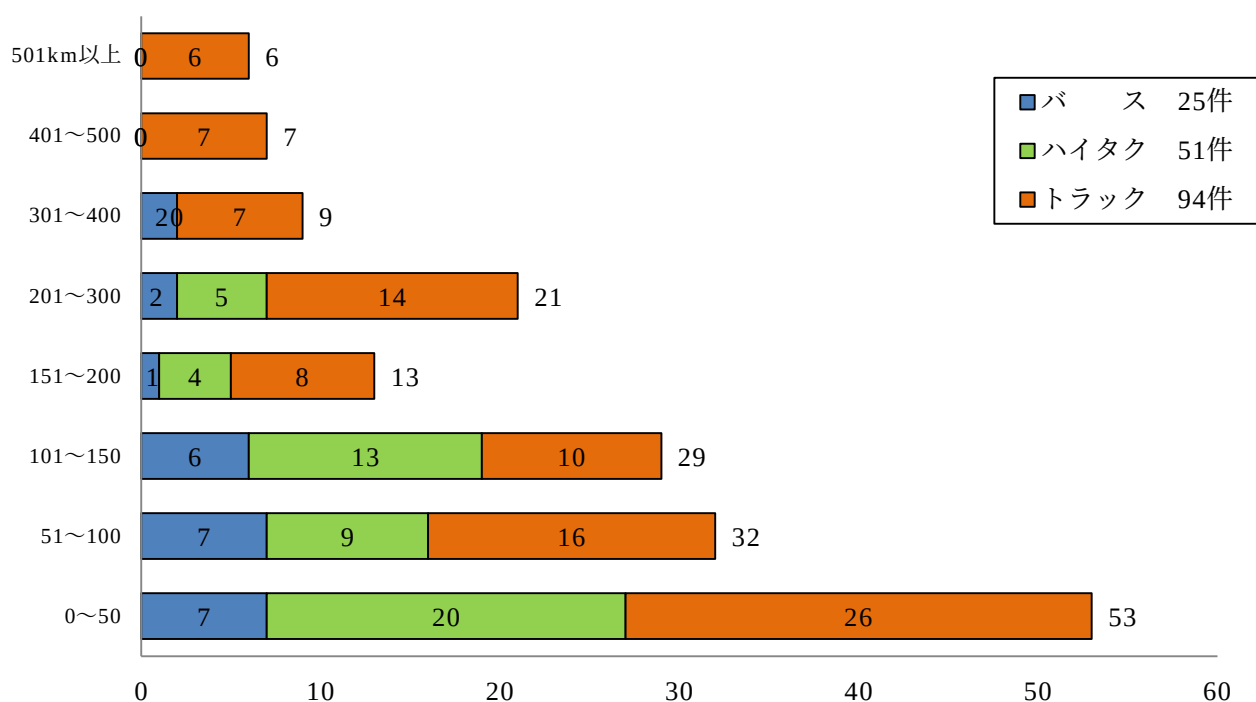
〔図13〕 事故発生以前1ヶ月間の休日日数（有責事故件数 170件）



④ 事故発生日における乗務距離

事故当日における乗務距離は〔図14〕のとおり、乗務開始から100kmまでに事故を起こしたものが全体の50.0%を占めています。

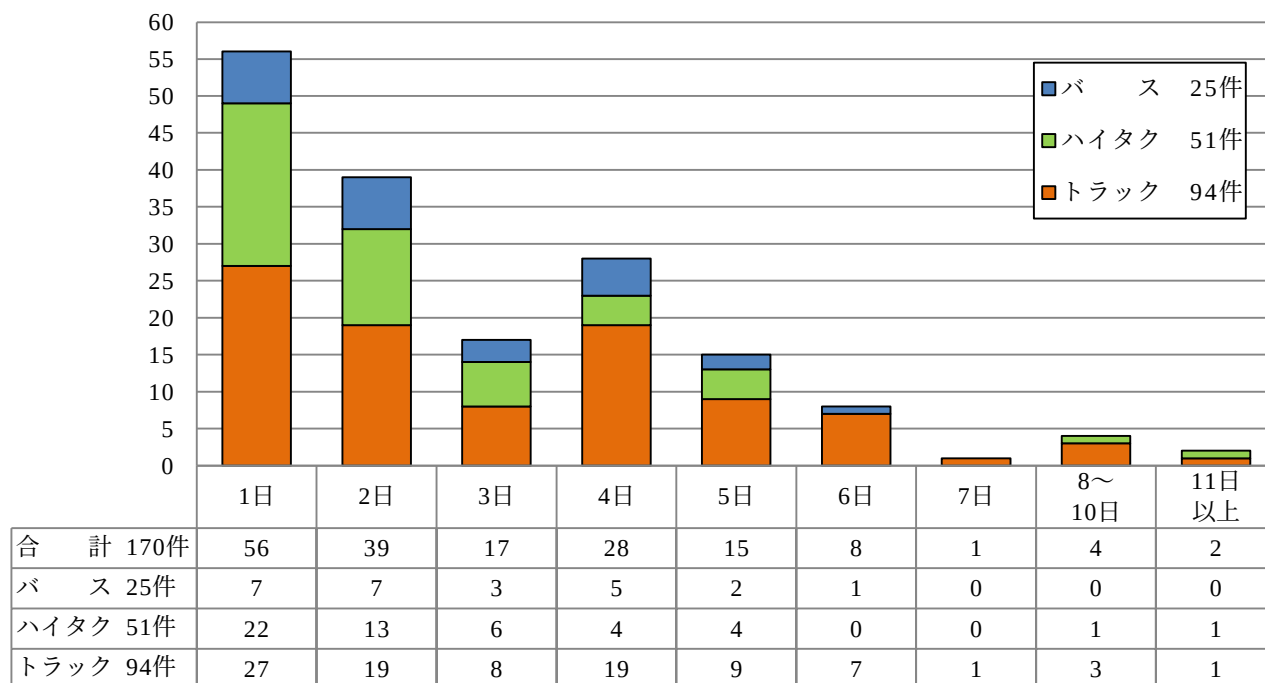
〔図14〕 乗務開始から事故発生までの乗務距離（有責件数 170件）



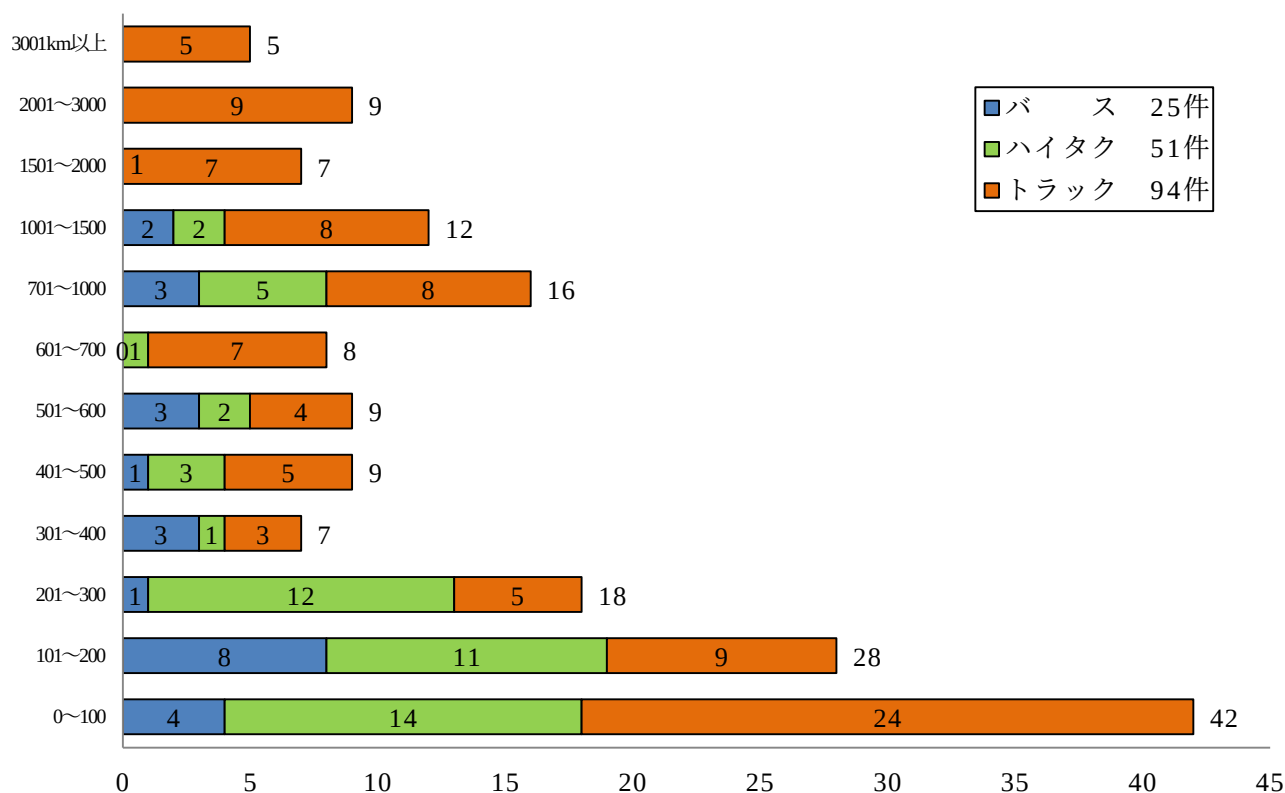
⑤ 最近の休日から事故当日までの勤務日数及び乗務距離

事故発生運転者の、最近の休日から事故発生までの勤務日数及び乗務距離は、〔図15〕及〔図16〕のとおりです。休日明け（1日）に全体の32.9%の事故が発生しており、休日明けの乗務開始時に事故が多いことを示しています。

〔図15〕 休日から事故発生までの勤務日数（有責事故件数 170件）



〔図16〕 休日から事故発生までの乗務距離（有責事故件数 170件）

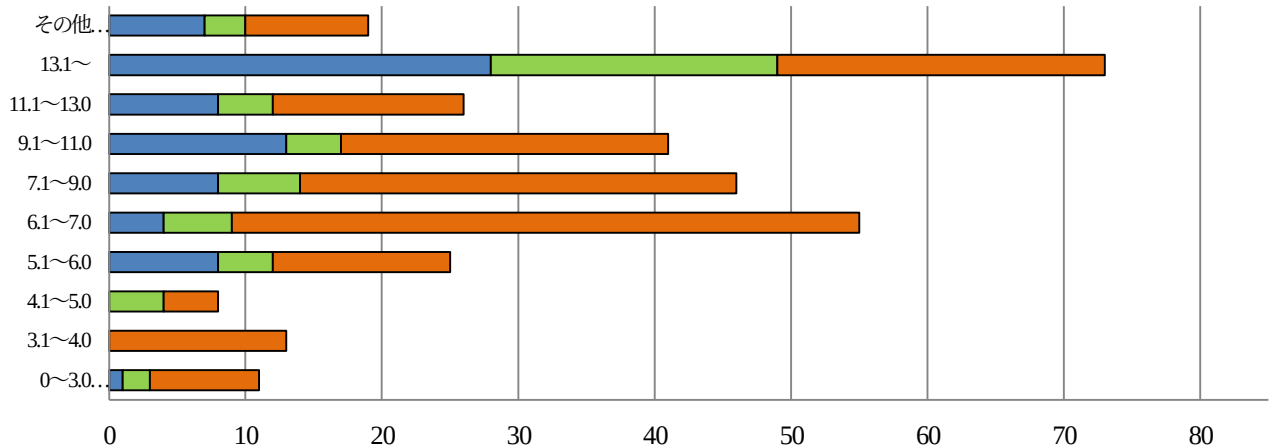


6. 事故発生地点の道路状況

① 道路幅員

事故発生地点の道路幅員についてみると〔図17〕のように、狭い道路よりも幅員のある道路での事故発生が多く、13.1m以上の道路での事故が23%となっています。

〔図17〕 道路幅員における事故発生状況（総件数 317件）

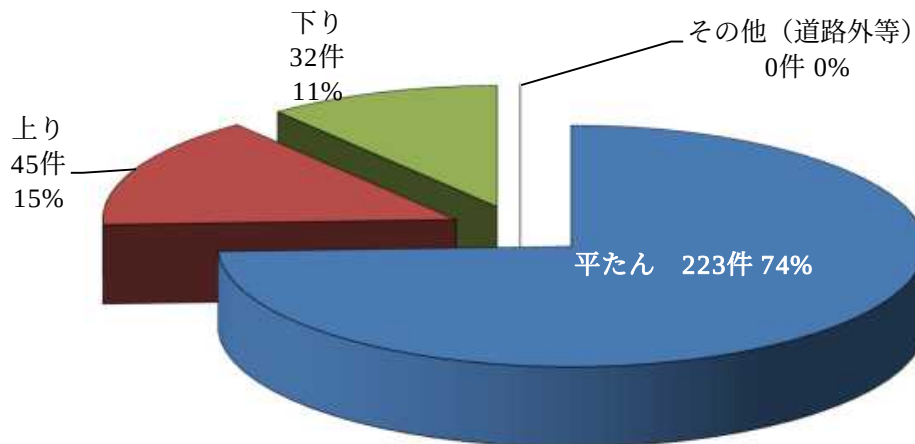


	0～3.0 (m)	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	6.1～7.0	7.1～9.0	9.1～11.0	11.1～13.0	13.1～	その他 (路外等)
■ バス 77件	1	0	0	8	4	8	13	8	28	7
■ ハイタク 53件	2	0	4	4	5	6	4	4	21	3
■ トラック 187件	8	13	4	13	46	32	24	14	24	9
合 計 317件	11	13	8	25	55	46	41	26	73	19

② 道路勾配

事故発生地点の道路勾配についてみると〔図18〕のように、「平たん」が全体の74%を占め、次いで「上り」の15%、「下り」の11%となっています。

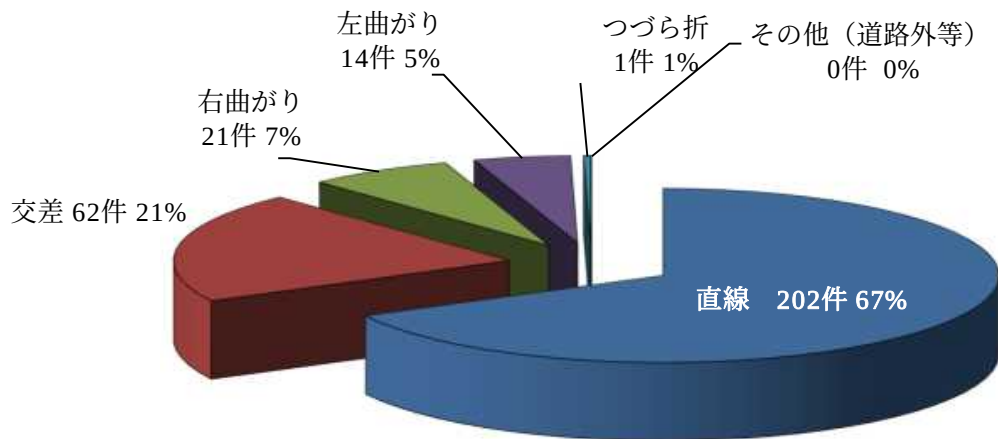
〔図18〕 道路の勾配等における事故発生状況（総件数 300件）



③ 道路の形態

道路の形態についてみると〔図19〕のように、直線道路での事故が最も多く全体の67%を占めており、次いで交差点での事故が21%となっています。

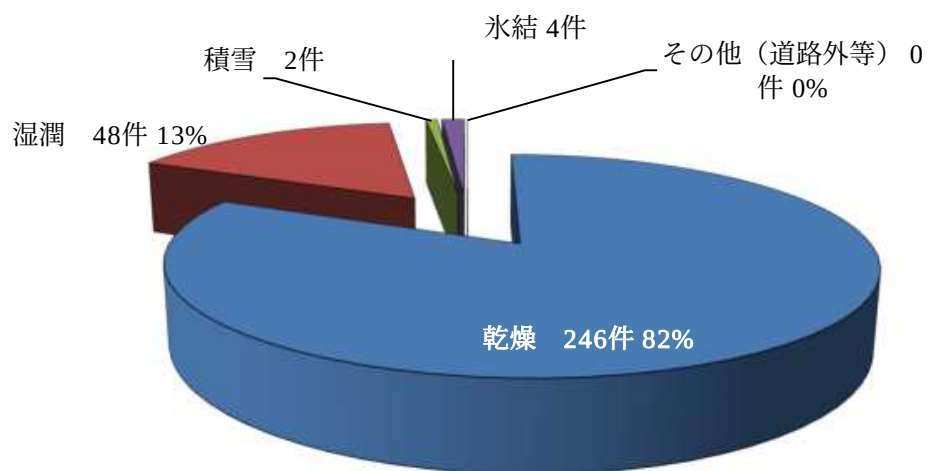
〔図19〕 直進、曲線等別事故発生状況（総件数 300件）



⑤ 路面の状態

路面の状態についてみると〔図20〕のように、乾燥路面が最も多く全体の82%を占めており、次いで湿潤が13%となっています。

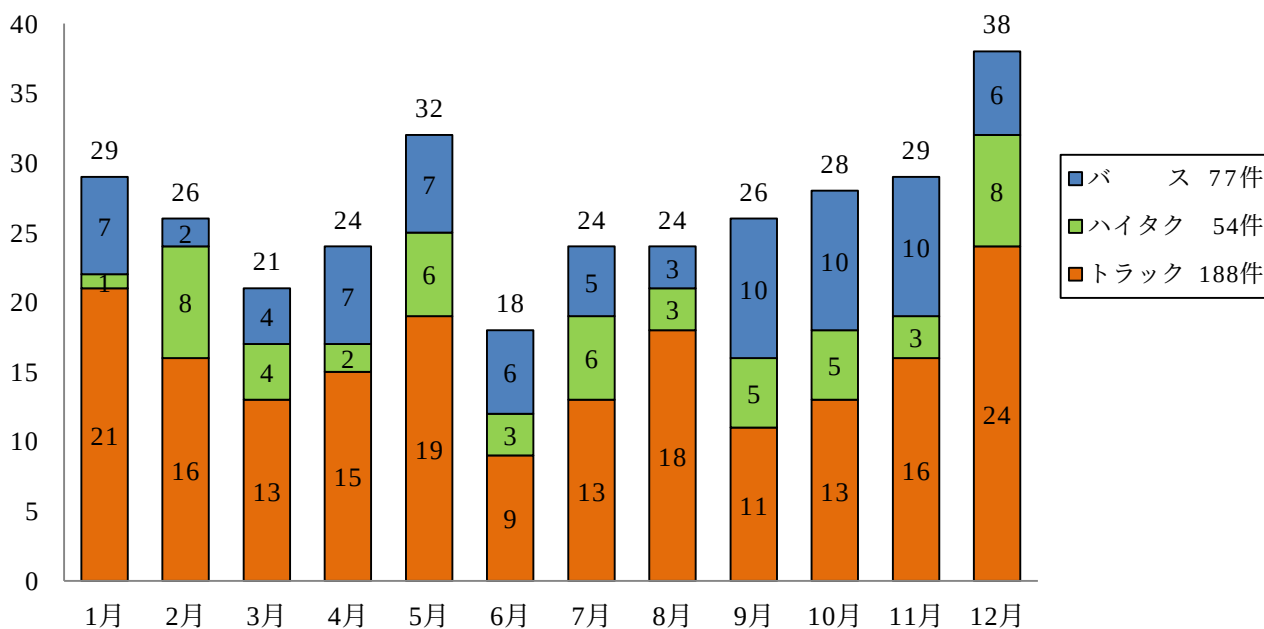
〔図20〕 路面の状態別事故発生状況（総件数 300件）



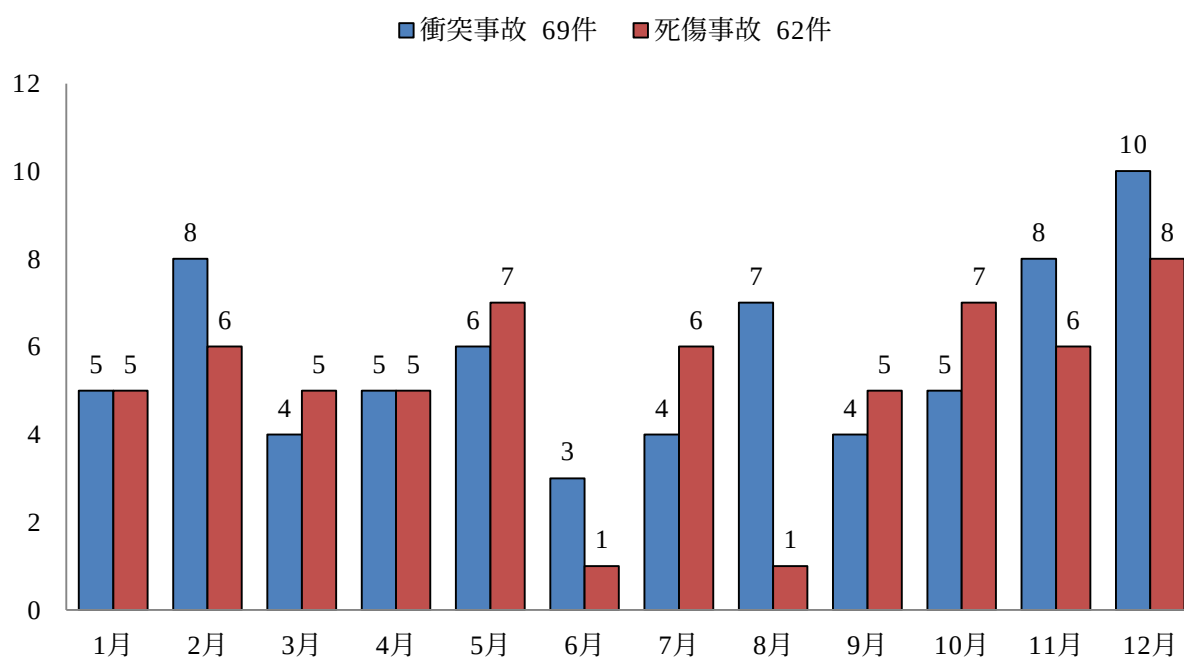
7. 月別・曜日別・時刻別事故発生状況

① 月別業態別事故発生状況

〔図21-1〕 月別業態別事故発生状況（総件数 319件）



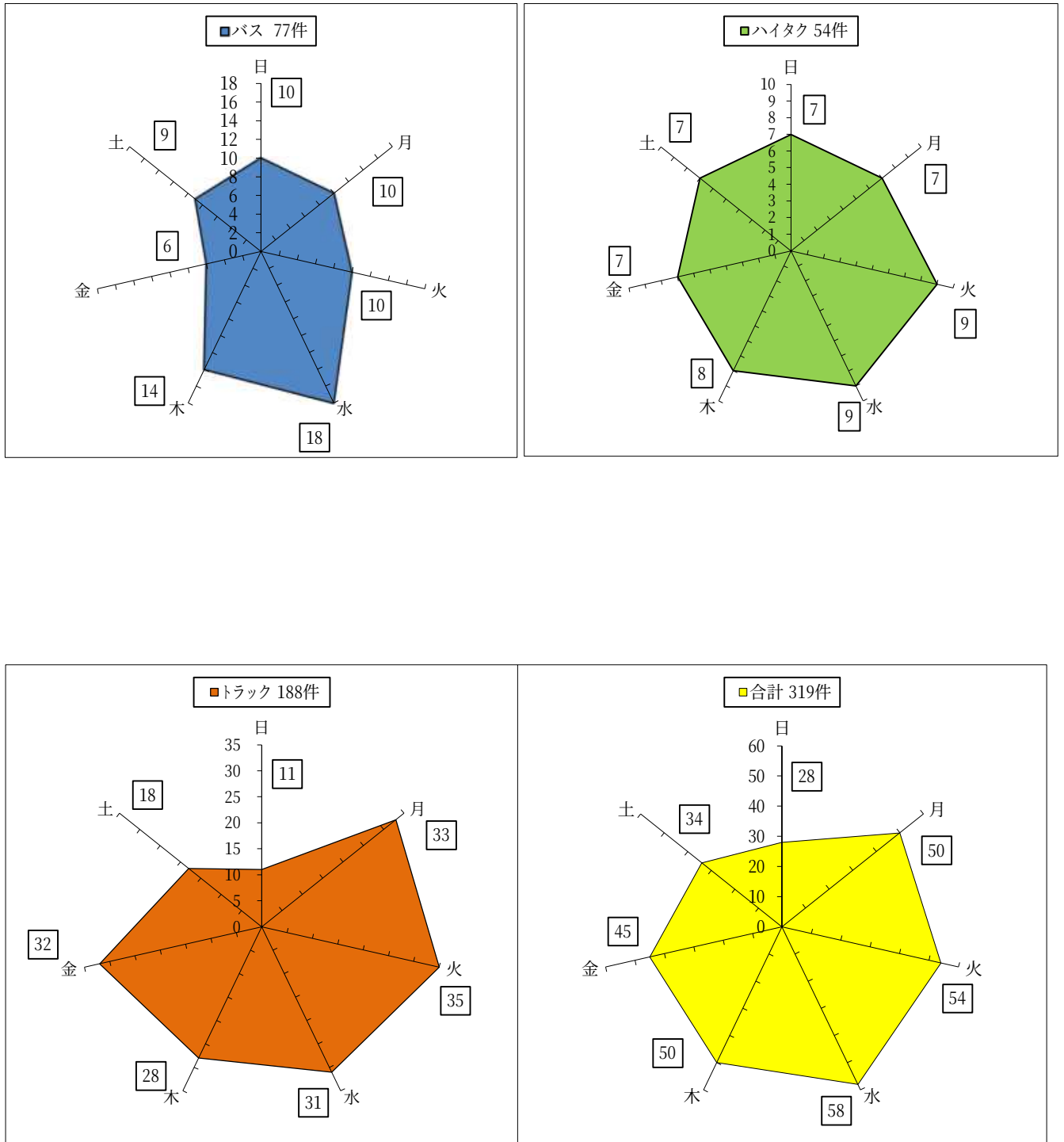
〔図21-2〕 月別・種別別事故発生状況（衝突事故、死傷事故）



② 曜日別事故発生状況

曜日別の事故発生状況については〔図22〕のとおり、バスについては水曜日が多く、金曜日は少なくなっています。ハイタクについては曜日での差が少なく、トラックについては日曜日の事故が少なくなっています。

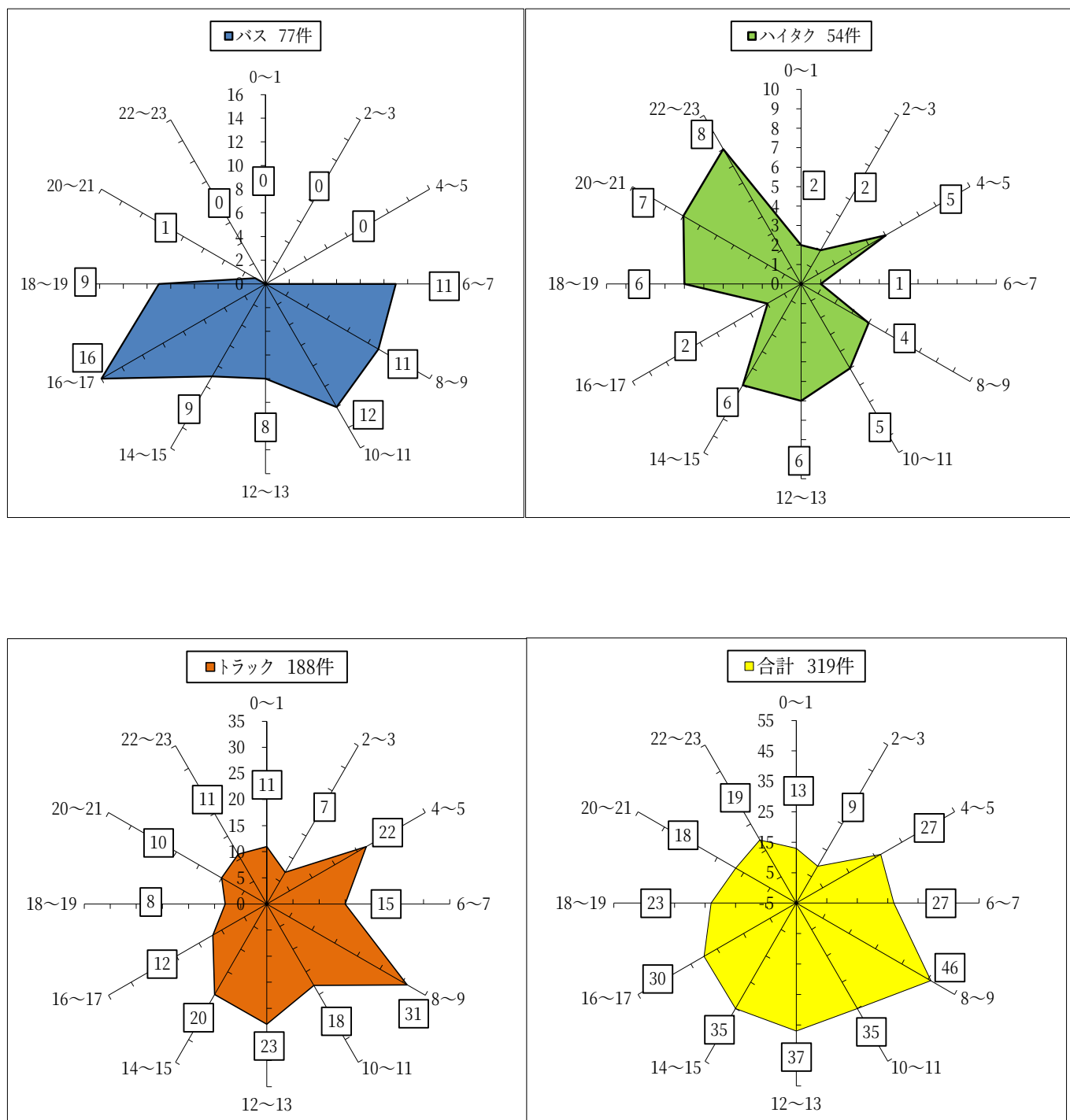
〔図22〕 曜日別事故発生状況



③ 時刻別事故発生状況

時刻別の事故発生状況は〔図23〕のとおり、バスについては朝と夕方、ハイタクについては夜間、トラックについては早朝から日中にかけて事故が多くなっています。

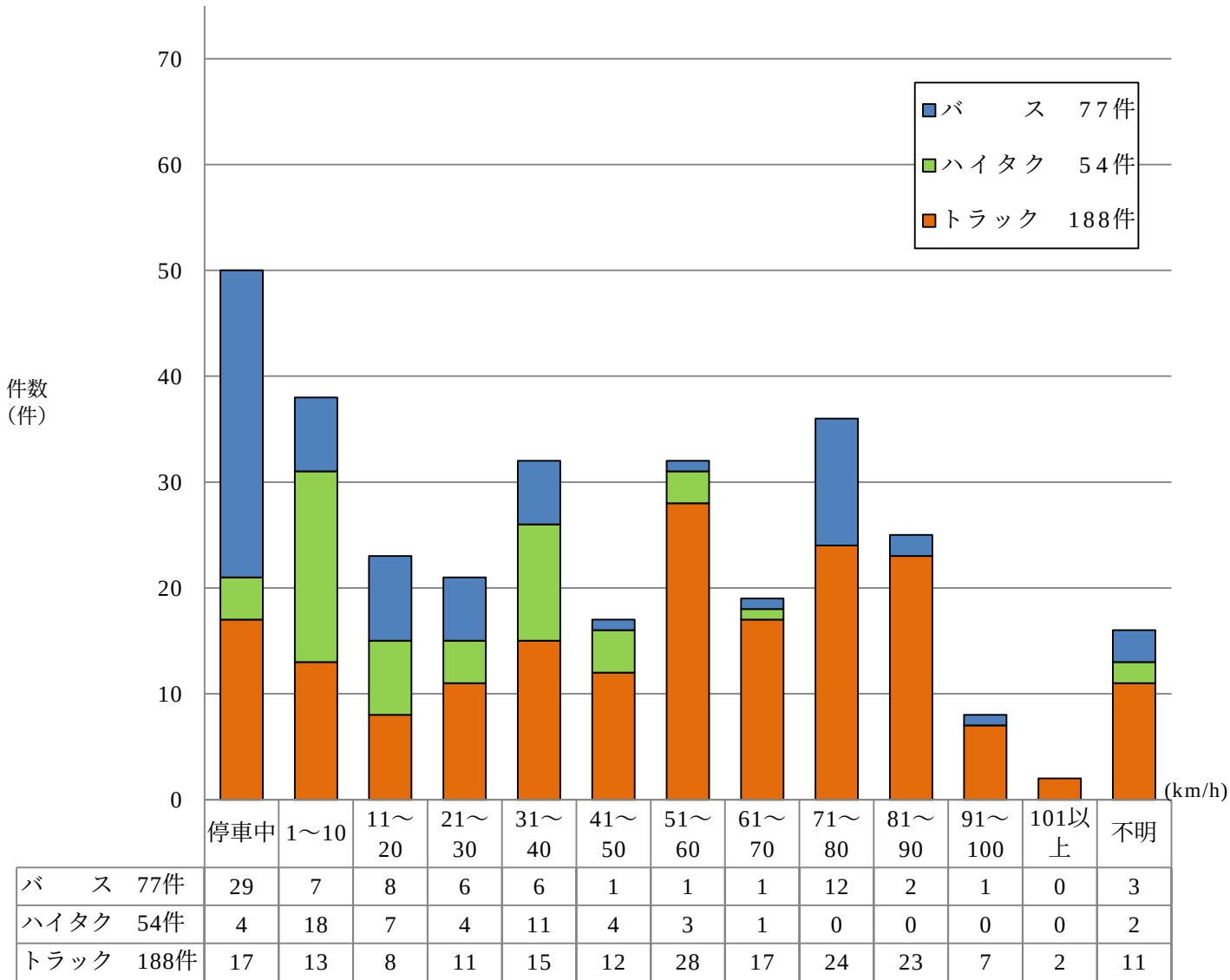
〔図23〕 時刻別事故発生状況



8. 危険認知速度別事故発生状況

危険認知速度別の発生状況では〔図24〕のとおりです。業態別にみると、バスについては停車中の事故が多く、ハイタクについては1~10km/h以下の速度域で事故が多く、トラックについては51~60km/hの速度域で多く事故が発生しています。

〔図24〕 危険認知速度別事故発生状況



9. 高速道路等における重大事故発生状況

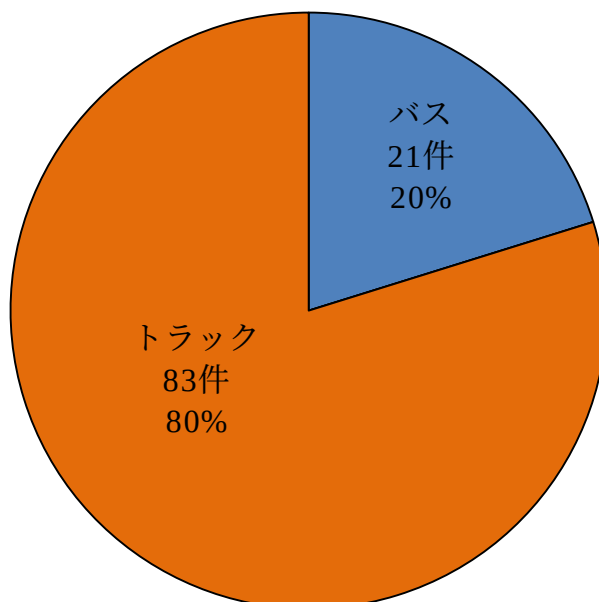
① 業態別重大事故発生状況

高速自動車国道及び自動車専用道路における重大事故発生状況は〔表8〕のとおりであり、全事故件数319件中104件と全体の32%を占めています。業態別事故発生の割合は〔図25〕のとおりで、バスは20%、トラックは80%となっています。

〔表8〕 業態別重大事故発生状況

	バス		ハイタク		トラック		計		合計
	高速	専用	高速	専用	高速	専用	高速	専用	
重大事故件数	18	3	0	0	75	8	93	11	104
死者数	0	0	0	0	13	2	13	2	15
重傷者数	2	0	0	0	17	2	19	2	21
軽傷者数	11	0	0	0	24	4	35	4	39

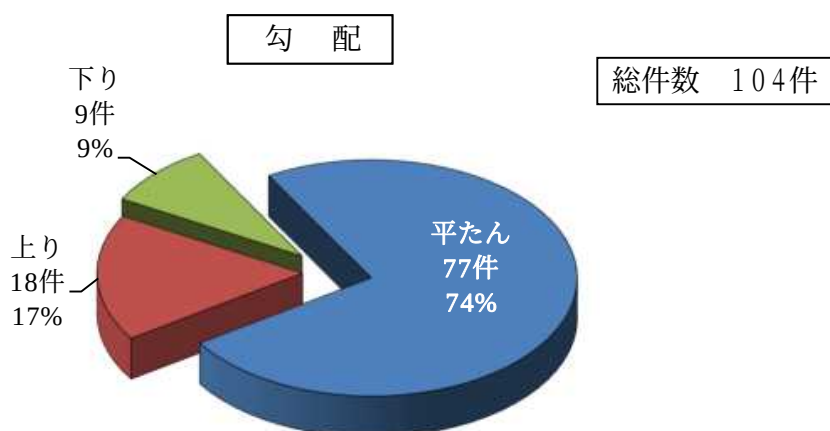
〔図25〕 業態別重大事故発生状況



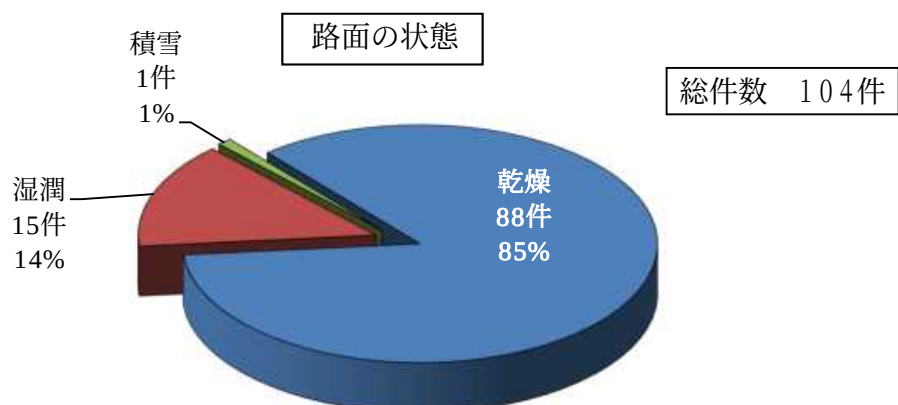
② 事故発生地点の道路状況

事故発生地点の道路状況については〔図26-1〕〔図26-2〕〔図26-3〕のとおりです。

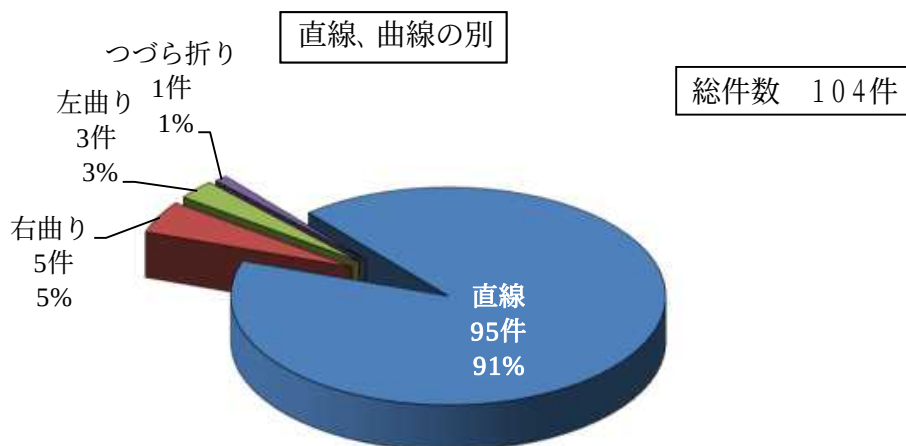
〔図26-1〕



〔図26-2〕



〔図26-3〕



Ⅲ 管内事業用自動車の重大事故統計

1. 業態別・県別・年次別重大事故発生状況

業態 年 県別	バ ス					ハイタク					トラック					合 計				
	3	4	5	6	7	3	4	5	6	7	3	4	5	6	7	3	4	5	6	7
福 岡	24	24	32	28	16	18	17	15	13	24	68	49	58	67	72	110	90	105	108	112
佐 賀	5	3	7	7	7				1		22	14	17	11	15	27	16	24	19	22
長 崎	17	16	21	30	25	10	12	7	17	22	11	16	8	18	8	38	44	36	65	55
熊 本	8	7	3	5	4		1	5	4	1	20	17	27	30	33	28	25	35	39	38
大 分	7	21	25	22	10	1	1	3	3	5	12	16	14	23	17	20	38	42	48	32
宮 崎	4	2	5	3	4	3	2	2	2		11	12	14	19	18	18	16	21	24	22
鹿 児 島	5	7	21	13	11	4	3	5	4	2	28	29	23	23	25	37	39	49	40	38
計	70	79	114	108	77	36	36	37	44	54	172	153	161	191	188	278	268	312	343	319

2. 業態別・事故の種類別・年次別重大事故発生状況

業態 年 種類	バ ス					ハイタク					トラック					合 計				
	3	4	5	6	7	3	4	5	6	7	3	4	5	6	7	3	4	5	6	7
転 覆								1	2		15	15	11	21	11	15	15	12	23	11
転 落			1		1		1	1	1	2	9	8	13	10	12	9	9	15	11	15
路外逸脱																				
火 災			2	2	2	1	1	1		1	16	21	23	21	21	17	22	26	23	24
踏 切									1				1	1				1	2	
衝 突	7	10	10	9	6	12	10	7	14	19	50	53	41	48	44	69	73	58	71	69
車 内	13	13	18	13	9	5	3	1		1						18	16	19	13	10
死 傷	8	5	8	3	4	15	15	23	20	27	27	23	21	28	31	50	43	52	51	62
健康起因	1	5	4	7	8	1	1	2	3	4	7	5	11	12	9	9	11	17	22	21
危険物等															1					1
車両故障	41	46	71	74	46		1		1		26	20	27	37	38	67	67	98	112	84
その他					1	2	4	1	2		22	8	13	13	21	24	12	14	15	22
計	70	79	114	108	77	36	36	37	44	54	172	153	161	191	188	278	268	312	343	319

3. 県別・業態別重大事故発生状況

業 態		バ ス								ハ イ タ ク							
区分\県別		福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島	計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島	計
件 数		16	7	25	4	10	4	11	77	24	0	22	1	5	0	2	54
死 者 数		0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	1	0	2	0	0	6
負 傷 者		17	4	20	2	1	2	6	52	22	0	28	1	5	0	2	58
事 故 100件 当 り	死者	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	1.3	12.5	0.0	4.5	0.0	40.0	0.0	0.0	11.1
	傷者	106.3	57.1	80.0	50.0	10.0	50.0	54.5	67.5	91.7	0.0	127.3	100.0	100.0	0.0	100.0	107.4
自動車 1,000台 当たり	件数	3.4	9.8	13.2	2.6	13	5.5	5.3	6.2	2.4	0.0	8.6	0.3	2.6	0.0	0.7	2.3
	死者	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	0.3
	傷者	3.6	5.6	10.6	1.3	1.3	2.7	2.9	4.2	2.2	0.0	10.9	0.3	2.6	0.0	0.7	2.5
対象自動車		4685	711	1888	1559	798	728	2057	12426	10202	977	2558	2989	1920	1694	2777	23117

業 態		ト ラ ッ ク								合 計 （バス ・ ハイタク ・ トラック）							
区分\県別		福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島	計	福 岡	佐 賀	長 崎	熊 本	大 分	宮 崎	鹿児島	合 計
件 数		72	15	8	33	17	18	25	188	112	22	55	38	32	22	38	319
死 者 数		14	5	1	9	6	11	6	52	17	5	2	10	8	11	6	59
負 傷 者		47	16	5	14	5	10	10	107	86	20	53	17	11	12	18	217
事 故 100件 当 り	死者	19.4	33.3	12.5	27.3	35.3	61.1	24.0	27.7	15	22.7	3.6	26.3	25.0	50.0	16	18.5
	傷者	65.3	106.7	62.5	42	29.4	55.6	40.0	57	76.8	90.9	96.4	44.7	34.4	54.5	47.4	68.0
自動車	件数	1.3	1.5	0.9	2.0	1.6	1.6	1.5	1.4	1.6	1.9	4.0	1.8	2.5	1.6	1.8	1.9
1,000 台 当たり	死者	0.2	0.5	0.1	0.5	0.6	1.0	0.4	0.4	0.2	0.4	0.1	0.5	0.6	0.8	0.3	0.4
	傷者	0.8	1.6	0.5	0.9	0.5	0.9	0.6	0.8	1.2	1.7	3.9	0.8	0.8	0.9	0.8	1.3
対象自動車		57288	10158	9205	16430	10327	11333	16860	131601	72175	11846	13651	20978	13045	13755	21694	167144

(注) 軽自動車を除く。なお、トラックには特種用途車を含み、被けん引車は除く。

4.県別・業態別・種類別重大事故発生状況(令和7年)

支局	事故種類 業態	合 計			転 覆			転 落			路外逸脱			火 災			踏 切		
		件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
福 岡	バ ス	16		17										1					
	ハイタク	24	3	22				1											
	トラック	72	14	47	4		3	3		1				11		1			
	計	112	17	86	4		3	4		1				12		1			
佐 賀	バ ス	7		4															
	ハイタク																		
	トラック	15	5	16				1		3				2					
	計	22	5	20				1		3				2					
長 崎	バ ス	25		20				1											
	ハイタク	22	1	28										1					
	トラック	8	1	5	1			1						2					
	計	55	2	53	1			2						3					
熊 本	バ ス	4	1	2										1					
	ハイタク	1		1															
	トラック	33	9	14	4		5							6					
	計	38	10	17	4		5							7					
大 分	バ ス	10		1															
	ハイタク	5	2	5															
	トラック	17	6	5	2			3	1										
	計	32	8	11	2			3	1										
宮 崎	バ ス	4		2															
	ハイタク																		
	トラック	18	11	10				2											
	計	22	11	12				2											
鹿児島	バ ス	11		6															
	ハイタク	2		2				1		1									
	トラック	25	6	10				2		1									
	計	38	6	18				3		2									
合 計	バ ス	77	1	52				1						2					
	ハイタク	54	6	58				2		1				1					
	トラック	188	52	107	11		8	12	1	5				21		1			
	計	319	59	217	11		8	15	1	6				24		1			

支局	事故種類 業態	衝 突			車 内			死 傷			健康起因			危険物等			車両故障		
		件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
福 岡	バ ス	3		12	3		3	2		2							7		
	ハイタク	8	1	11				13	2	11	2								
	トラック	18	7	33				12	7	7				1			17		
	計	29	8	56	3		3	27	9	20	2			1			24		
佐 賀	バ ス				2		2				3		2				2		
	ハイタク																		
	トラック	4	2	5				5	2	6									
	計	4	2	5	2		2	5	2	6	3		2				2		
長 崎	バ ス	2		17	1		1	1		1	3		1				17		
	ハイタク	9		17	1		1	9		9	2	1	1						
	トラック	1	1	1							1		1						
	計	12	1	35	2		2	10		10	6	1	3				17		
熊 本	バ ス				1		1	1	1		1		1						
	ハイタク							1		1									
	トラック	5	4	5				5	4	1	3	1	3				7		
	計	5	4	5	1		1	7	5	2	4	1	4				7		
大 分	バ ス										1		1				9		
	ハイタク	1		2				4	2	3									
	トラック	3	3	3				2	2		2		2				5		
	計	4	3	5				6	4	3	3		3				14		
宮 崎	バ ス				2		2										2		
	ハイタク																		
	トラック	9	7	8				3	3		1	1	1				1		
	計	9	7	8	2		2	3	3		1	1	1				3		
鹿児島	バ ス	1		6													9		
	ハイタク	1		1															
	トラック	4	2	5				4	1	3	2	2					8		
	計	6	2	12				4	1	3	2	2					17		
合 計	バ ス	6		35	9		9	4	1	3	8		5				46		
	ハイタク	19	1	31	1		1	27	4	24	4	1	1						
	トラック	44	26	60				31	19	17	9	4	7	1			38		
	計	69	27	126	10		10	62	24	44	21	5	13	1			84		

支局	事故種類 業態	飲酒等			救護違反			交通障害			その他		
		件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
福岡	バス												
	ハイタク トラック	1						5		2			
	計	1						5		2			
佐賀	バス												
	ハイタク トラック							2		1	1	1	1
	計							2		1	1	1	1
長崎	バス												
	ハイタク トラック							2		3			
	計							2		3			
熊本	バス												
	ハイタク トラック							3					
	計							3					
大分	バス												
	ハイタク トラック												
	計												
宮崎	バス												
	ハイタク トラック							2		1			
	計							2		1			
鹿児島	バス							1					
	ハイタク トラック							4		1	1	1	
	計							5		1	1	1	
合計	バス							1					
	ハイタク トラック	1						18		8	2	2	1
	計	1						19		8	2	2	1

5. その他

〔1〕 年別・業態別事業用自動車保有台数の推移（九州）

業態\年別	各年12月末現在						
	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
バス	13,864	13,234	12,867	12,520	12,421	13,234	12,426
ハイタク	26,600	25,911	25,319	24,814	24,246	25,911	23,117
トラック	129,440	131,057	131,906	131,334	131,406	131,057	131,601
合 計	169,904	170,202	170,092	168,668	168,073	170,202	167,144

〔2〕 県別・業態別事業用自動車保有台数

業態\県別	令和7年12月末現在							
	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	合 計
バス	4,685	711	1,888	1,559	798	728	2,057	12,426
ハイタク	10,202	977	2,558	2,989	1,920	1,694	2,777	23,117
トラック	57,288	10,158	9,205	16,430	10,327	11,333	16,860	131,601
合 計	72,175	11,846	13,651	20,978	13,045	13,755	21,694	167,144

（注）軽自動車を除く。なお、トラックには特種用途車を含み、被けん引車は除く。